

和合の楔

～平城京から藤原京へ～

設計趣旨

地方分権が進められている今、都市に寄りかかり似かよろうとする地方ではなく、一つ一つの力や色を出していく必要がある。それが日本全体の支えとなる。

47都道府県のうち、故郷である奈良県を考えた。

奈良県は古都として多くの歴史が存在する。それを守り、維持していくという

古きを重んじているが、その反面、変化を嫌い保守的になり、時代に対応出来ずにいる。

潜在力を無視し発展していくという矛盾が南（山地）北（盆地）にインフラ以上の格差を生み分離した。それが限界集落や災害の対応につながっている。

今、奈良県は新しきを知るために全体を見る必要がある。

全体の90%が山地である潜在力を活かさないか？

そのためには、他府県への利便性を重視し北部に中心がある現在を、

南に重心をずらす必要がある。

従来の開鎖的な公舎ではなく【公】【民】【共】一体となる計画とし、新たな協働体制を創る。

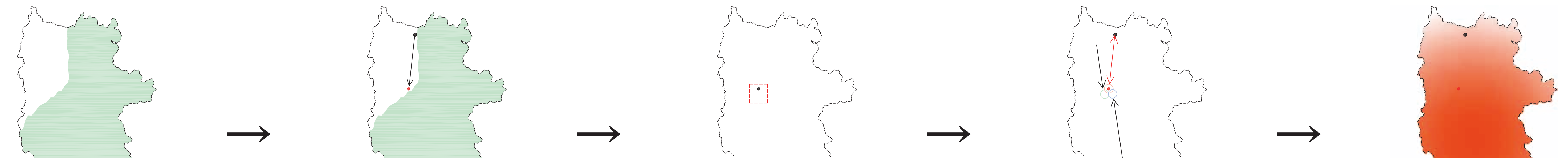
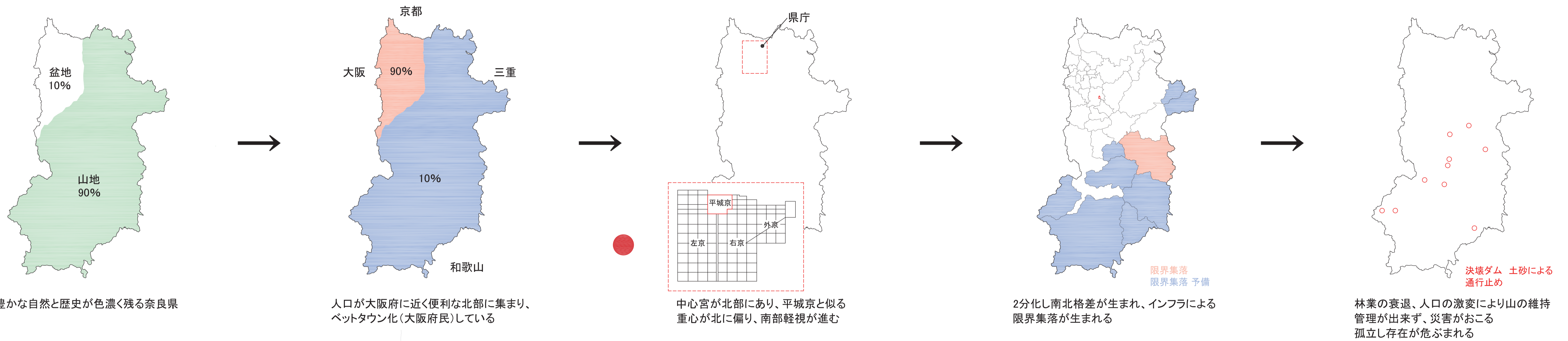
地域、南部、北部の情報があり、北部の中心とつながる事で、開鎖的な南部と無関心な北部をつなぐ

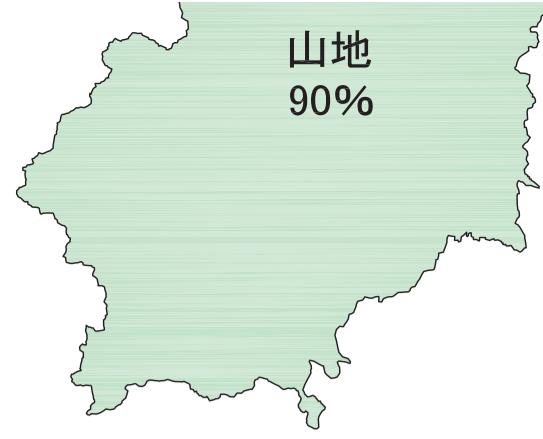
【楔】となる。

素晴らしい資源がある、実力がある事を幻想に終わらせないために、県民が問題意識を持ち、

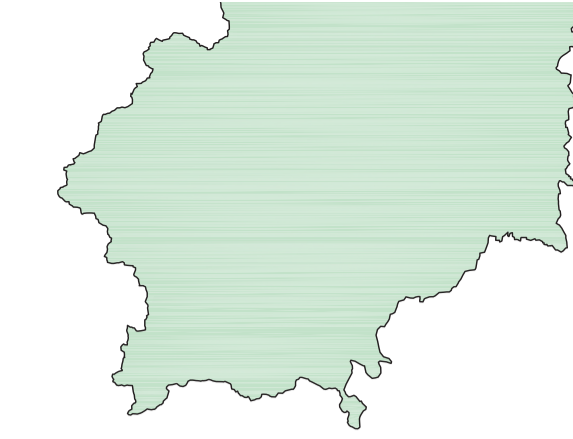
豊かな歴史と豊かな自然が【和合】する新しい奈良の歴史がはじまる。

奈良県 計画過程図

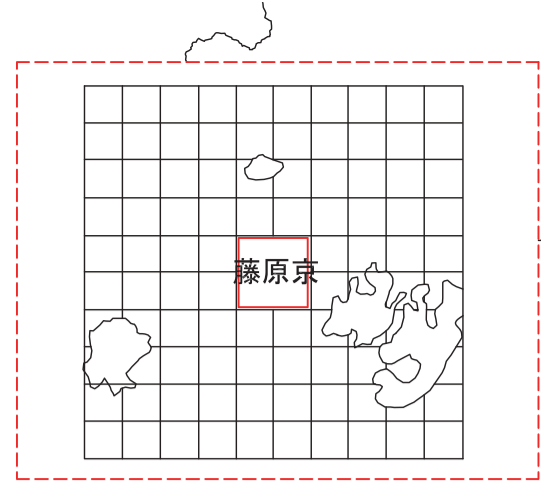




木材が見直されている今、土地の90%が山地の潜在力を公民で協力し維持する



県の中心を二分化する山地との間に配置し北部と連携する



中心宮が南部になり、藤原京と似る重心が南に寄り、南部に視線が集まる

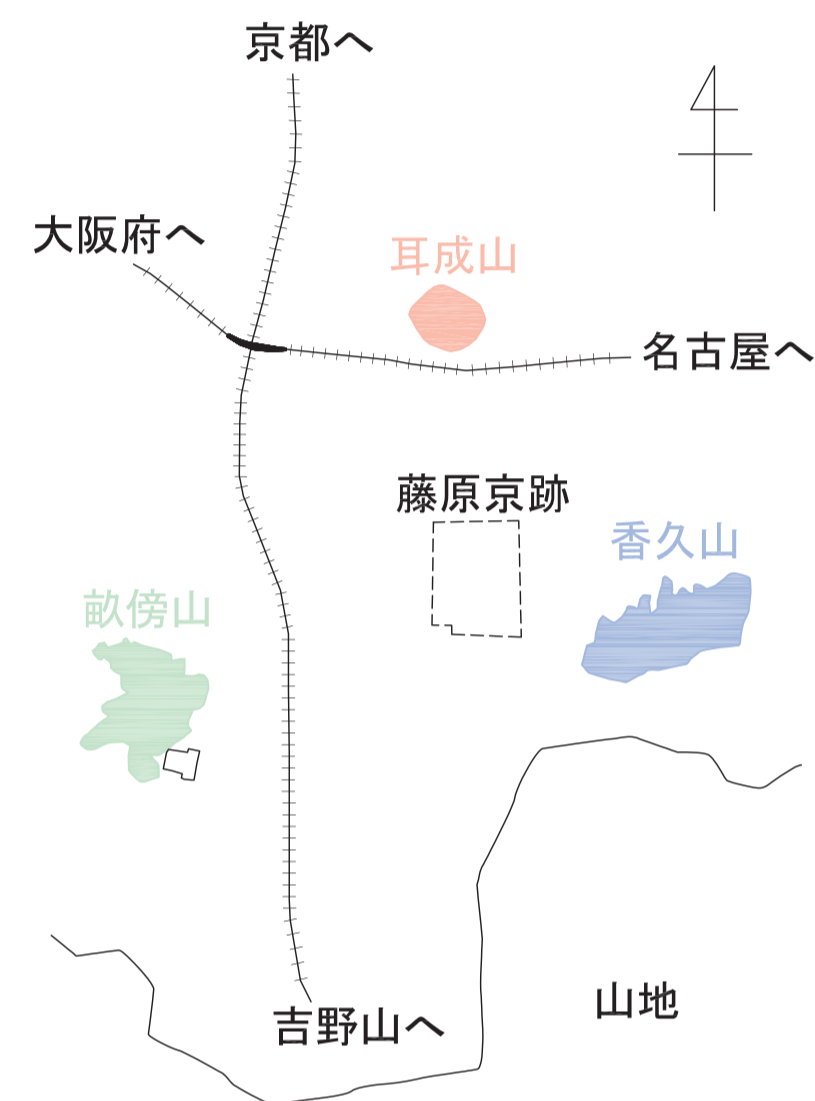


公・民・共の3棟で一体とし、南部・北部の情報を共有する

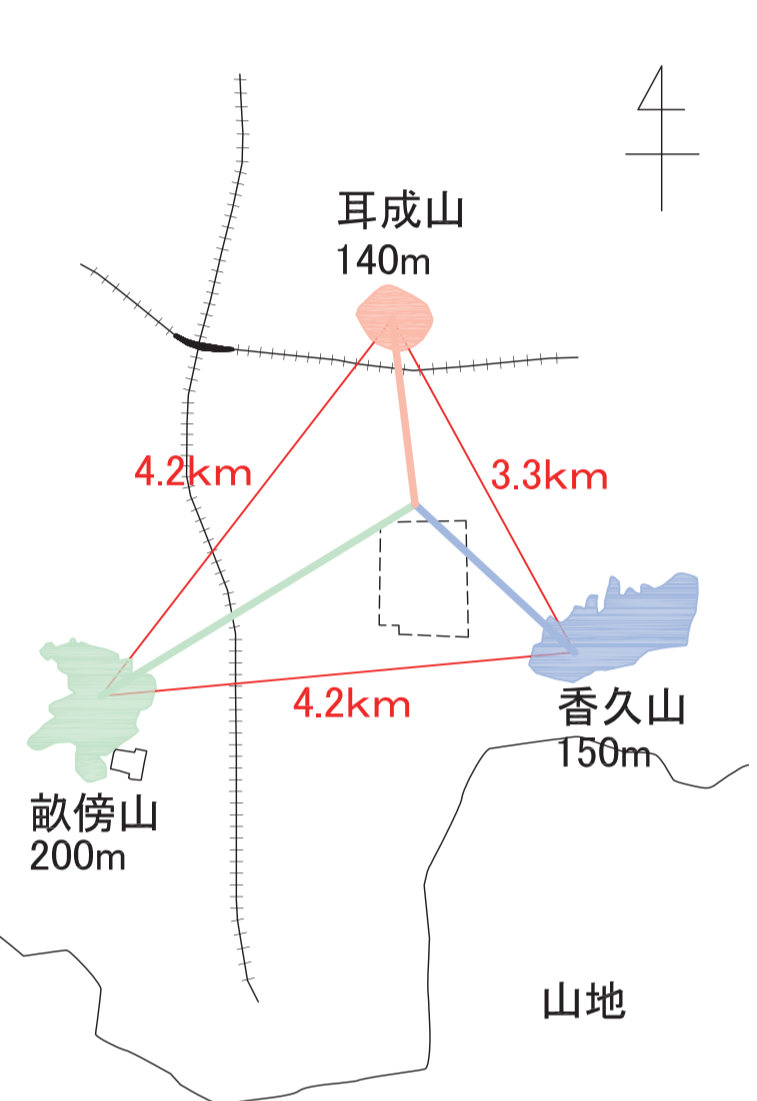


南部・北部の楔(くさび)となり、和合する

南部(藤原京) 計画過程図



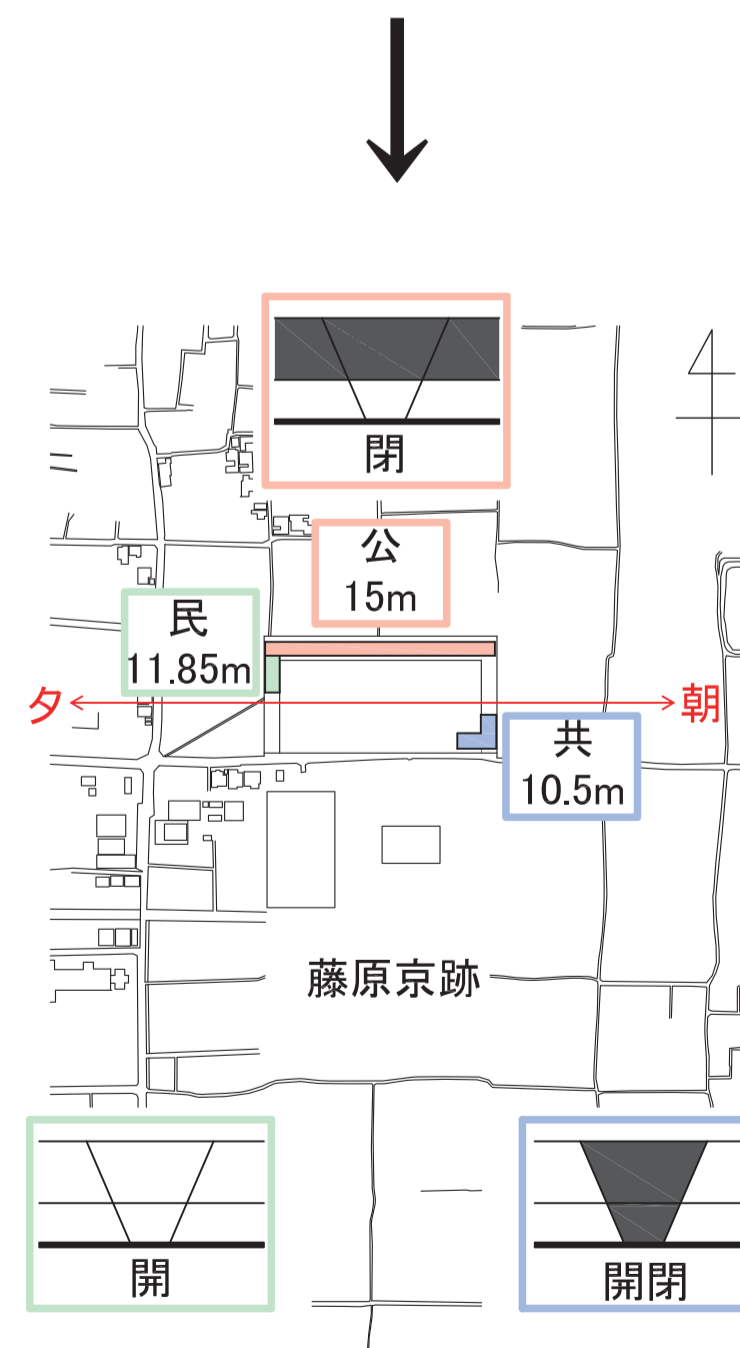
南部の中心地であり、山地との境目になる藤原京近辺に計画



地域の象徴である大和3山の頂より軸線を抽出する



3つの軸線より、公(耳成)・民(畝傍)・共(香久山)の3棟と入口が出来き、必要用途をいれる



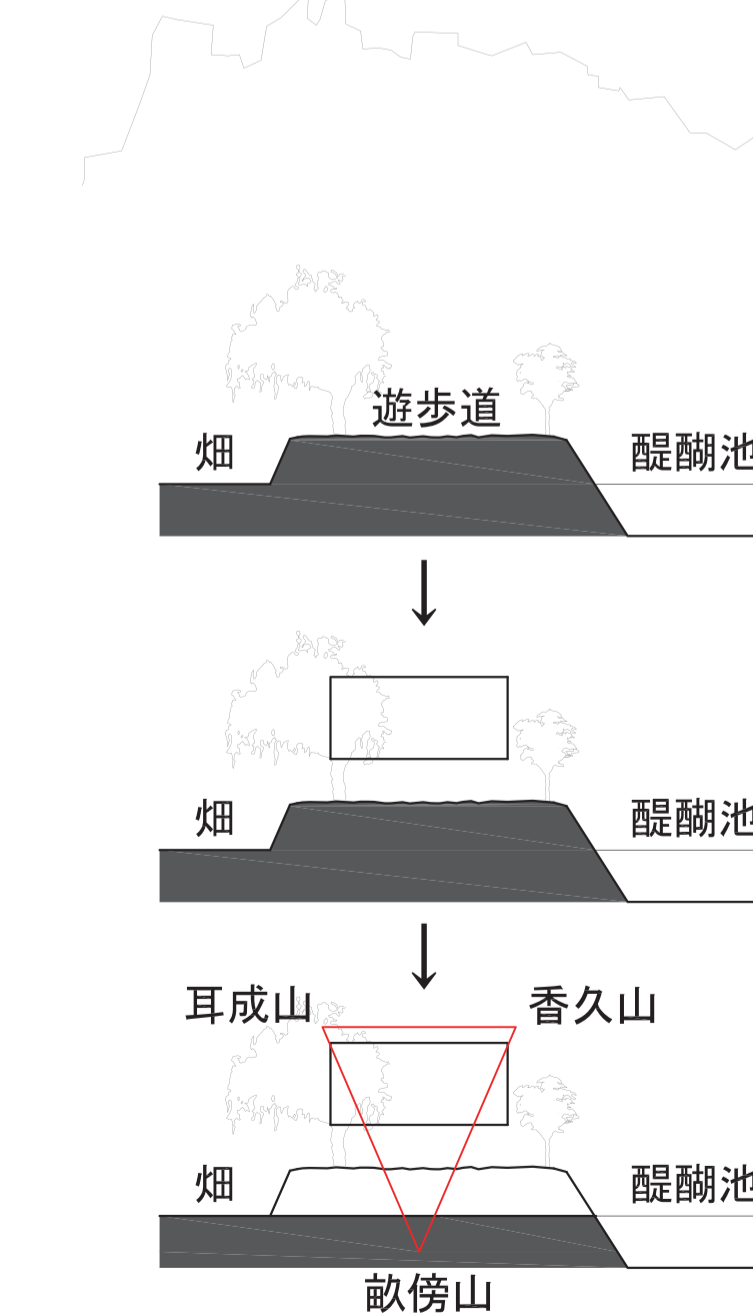
公は蔵・民は室・共は間と考え、3山より高さを出す
朝日、夕日の東西軸をあける



奈良県の歴史年表

縄文・弥生時代
旧石器時代から人々が住んでいた形跡がある
石器の材料となるサヌカイトが産出された為遺跡群など多数ある
弥生時代諸河川や高原地に集落が形成される

古墳時代
紀元3世紀から4世紀豪族が力を強め他地域と交流・攻防や大陸と交流の末、現在の日本の大半を占める大勢力となった大和王権と呼ばれる
邪馬台国があったとも言われている



桜と菜の花畑の遊歩道を融合する
地産の木材を積層し、三山の辺長比で浮かす

飛鳥時代
672年 飛鳥浄御原宮が遷都される
法隆寺、飛鳥寺など建築され、仏教が盛んになってくる
694年 藤原京に遷都される
条坊制を取り入れ中国風都城として知られる
680年 薬師寺(本薬師寺)が建てられる

奈良時代
710年 平城京に遷都される
大安寺、薬師寺、興福寺、元興寺(四大寺院)
(薬師寺は藤原京から移設される)
752年東大寺が建設される
765年西大寺が建設される
法隆寺を加え、南都七大寺とよばれる
759年、鑑真が晩年を過ごした唐招提寺が建設される

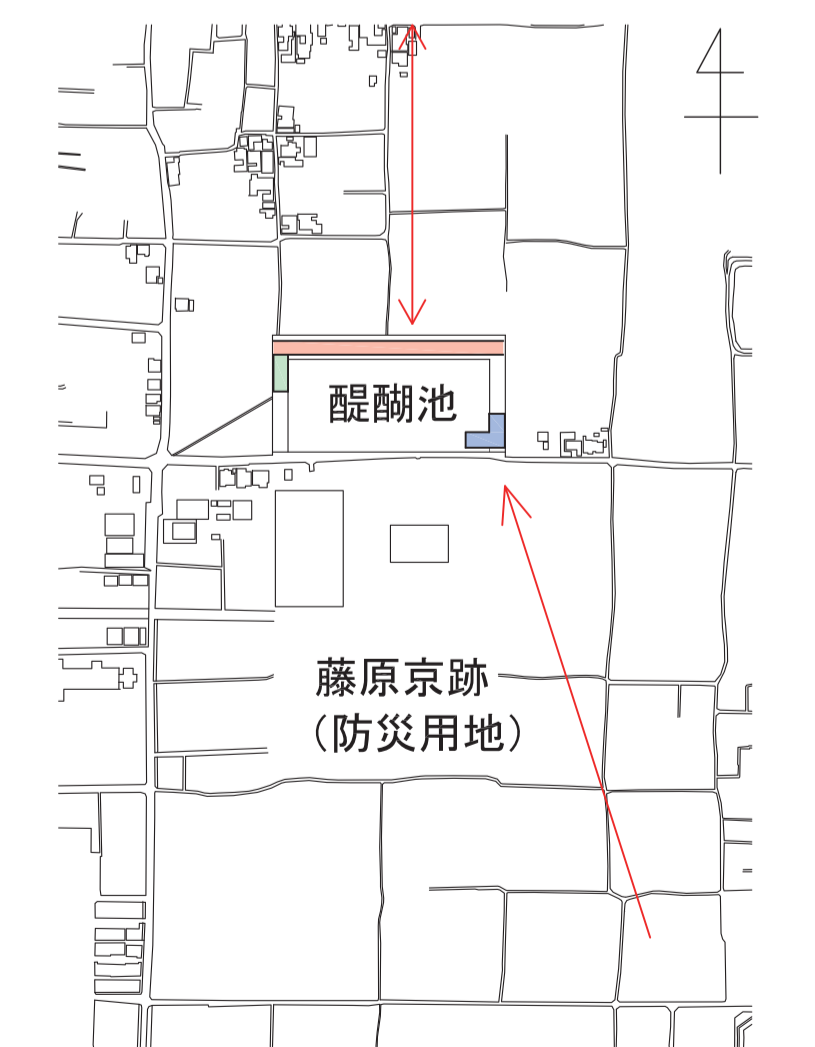
781年長岡京へ、794年平安京へ

明治以降
1868年5月奈良府、7月に奈良県になる
1870年五条県に一部の郡が移管される
1871年第一次府県統合により改めて奈良県が設置される
1876年堺県に編入され「大阪府の大和地域」とされた
1887年11月大阪府より分割され再び奈良県が誕生する

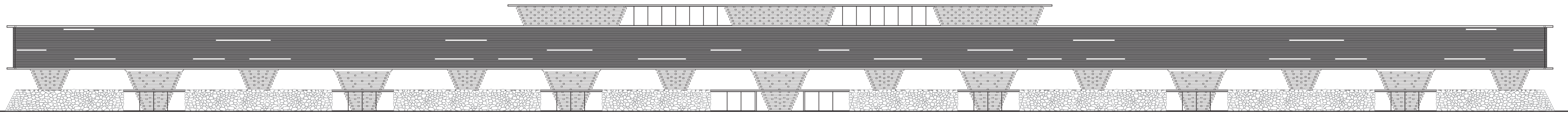
1892年大阪、奈良間に1896年奈良、木津間に鉄道が開業される事で、神社仏閣の多い奈良県が観光地として栄えていく事になる
1950年代現在の近鉄電車にあたる鉄道の開通により、学園前周辺が高級住宅街として開発が進んだ事で大阪のベッドタウンとしての礎を築いた
高度経済成長期やバブル時に県内の人口は増加しドーナツ化現象の影響を大きく受けた

2000年以降は、都心回帰の影響もあって人口は減少しているが、生駒市や香芝市、奈良市など大阪に近い地域では開発が進んでいる

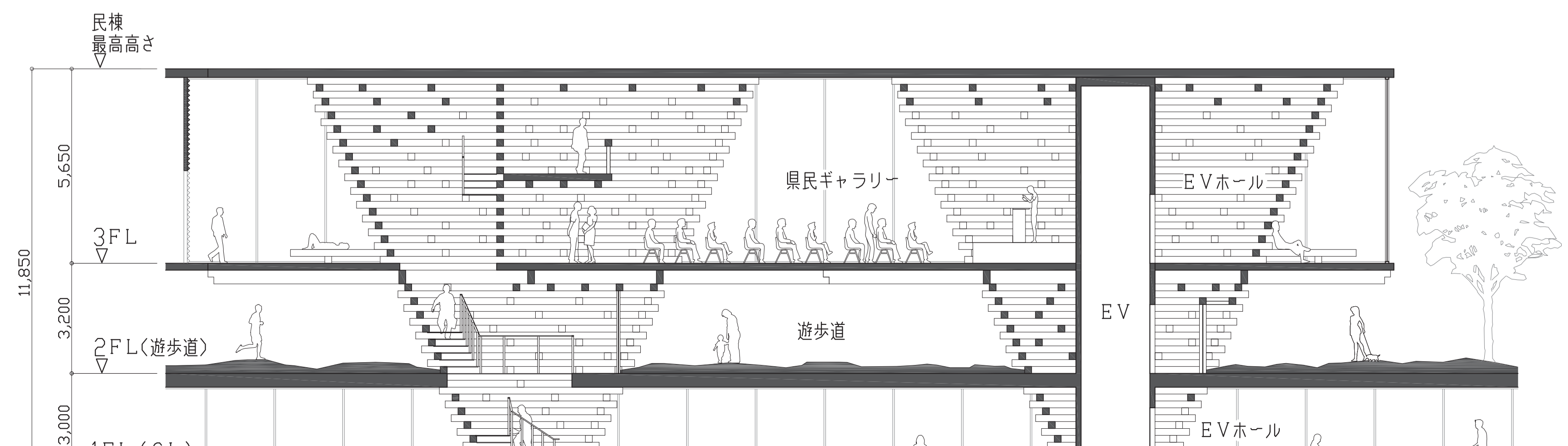
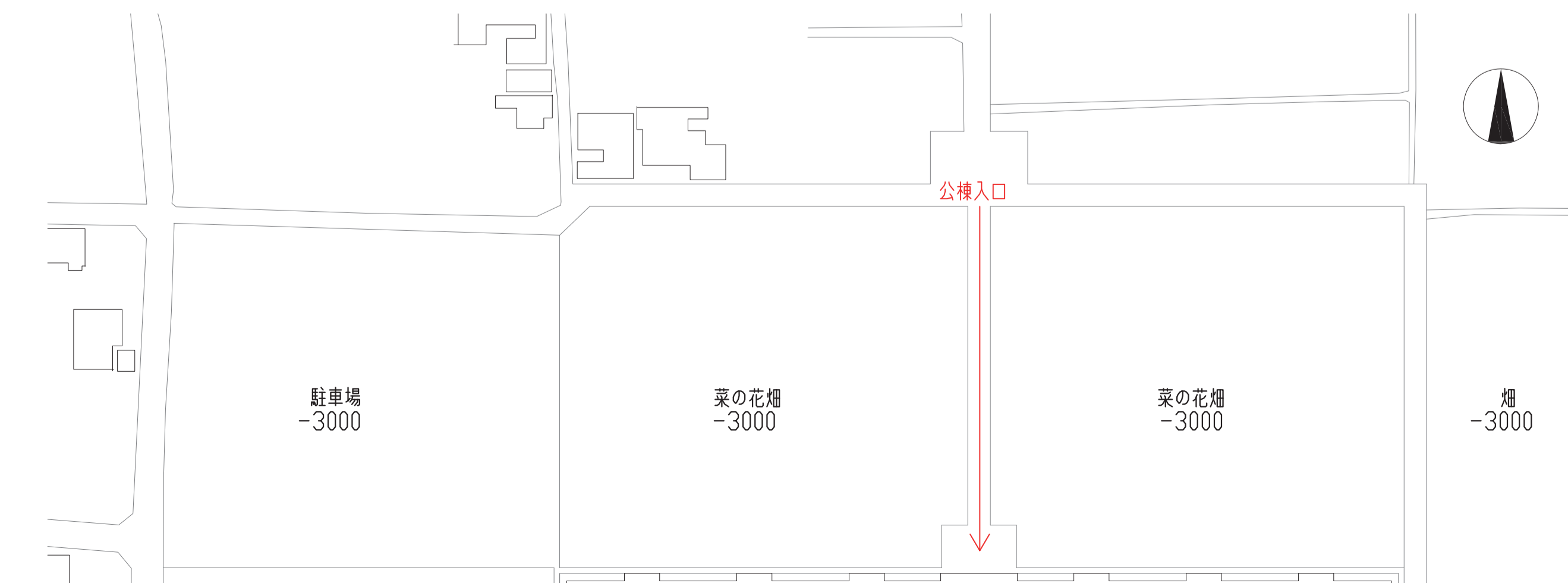
観光地の面としては、1993年に法隆寺、1998年に古都奈良の文化財
2004年には、紀伊山地の霊場と参拝道が世界遺産に指定され現在、4ヶ所目の登録に向け、明日香村が活動を行っている

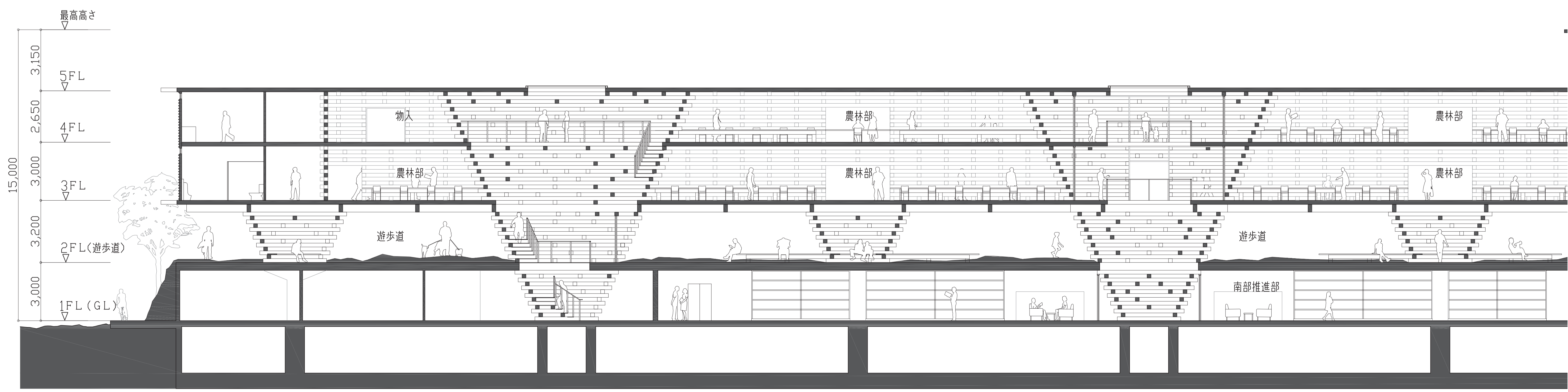
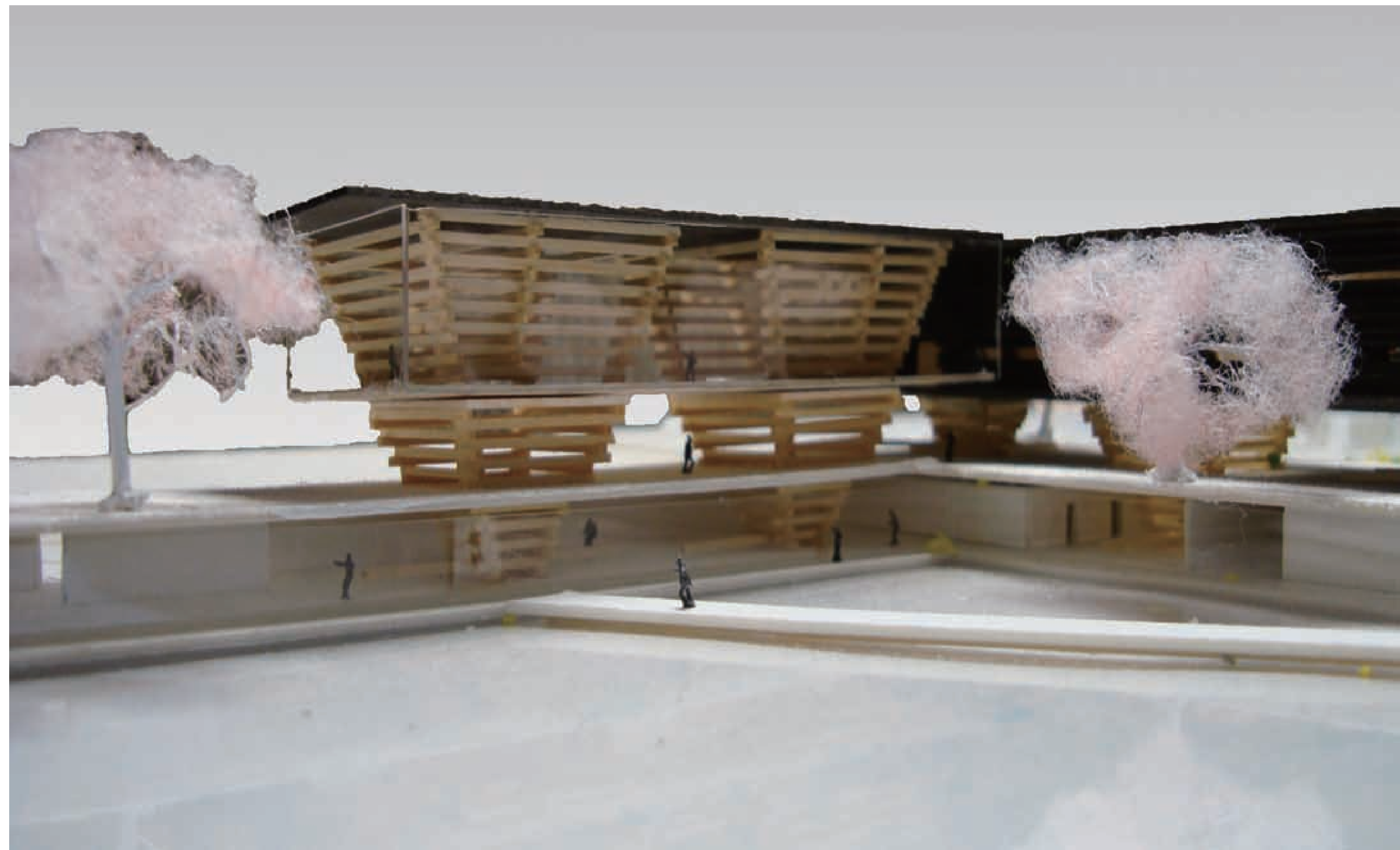
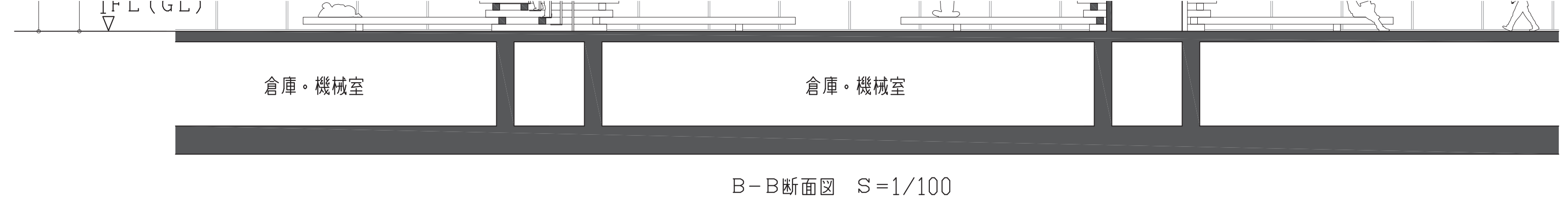
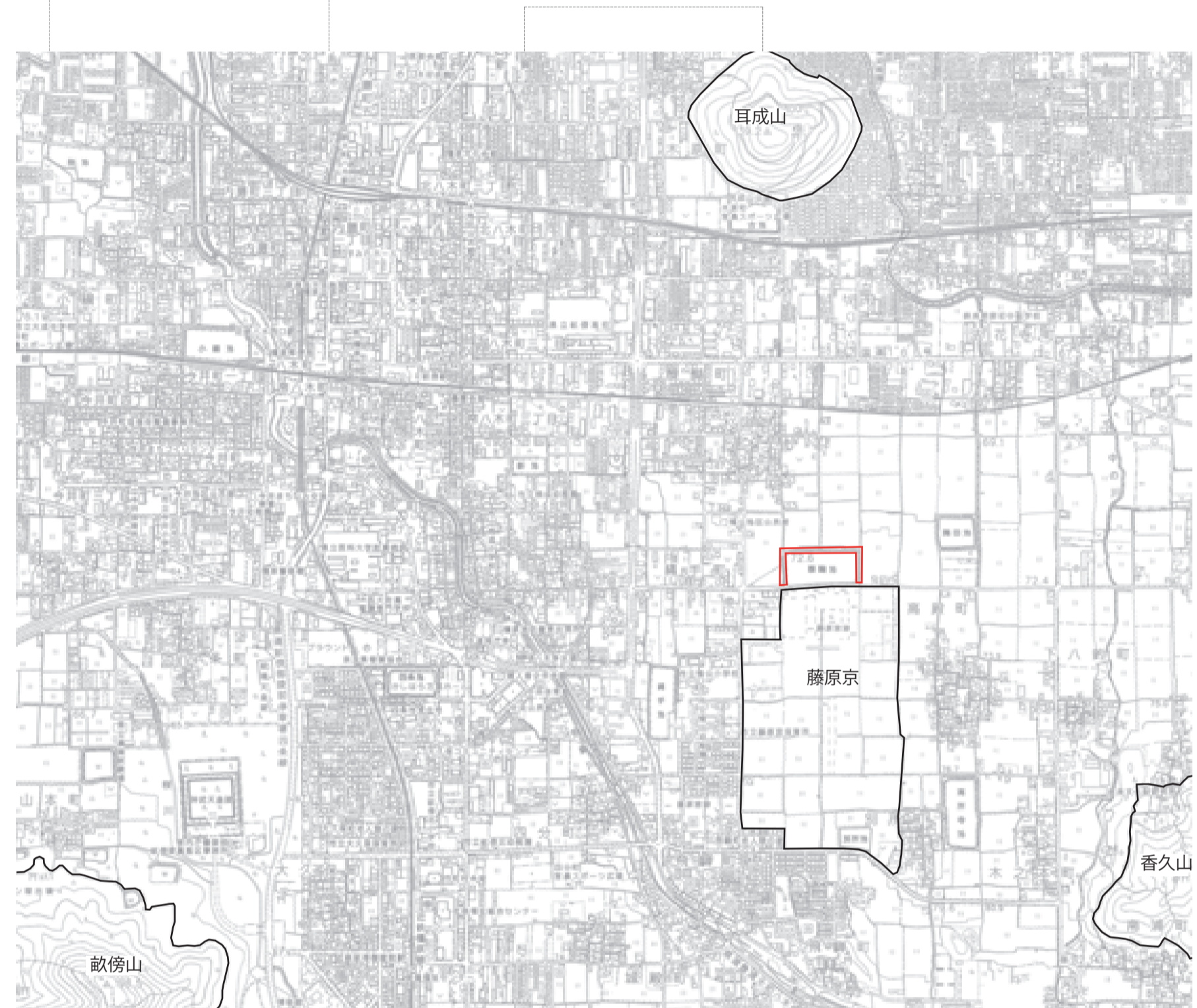
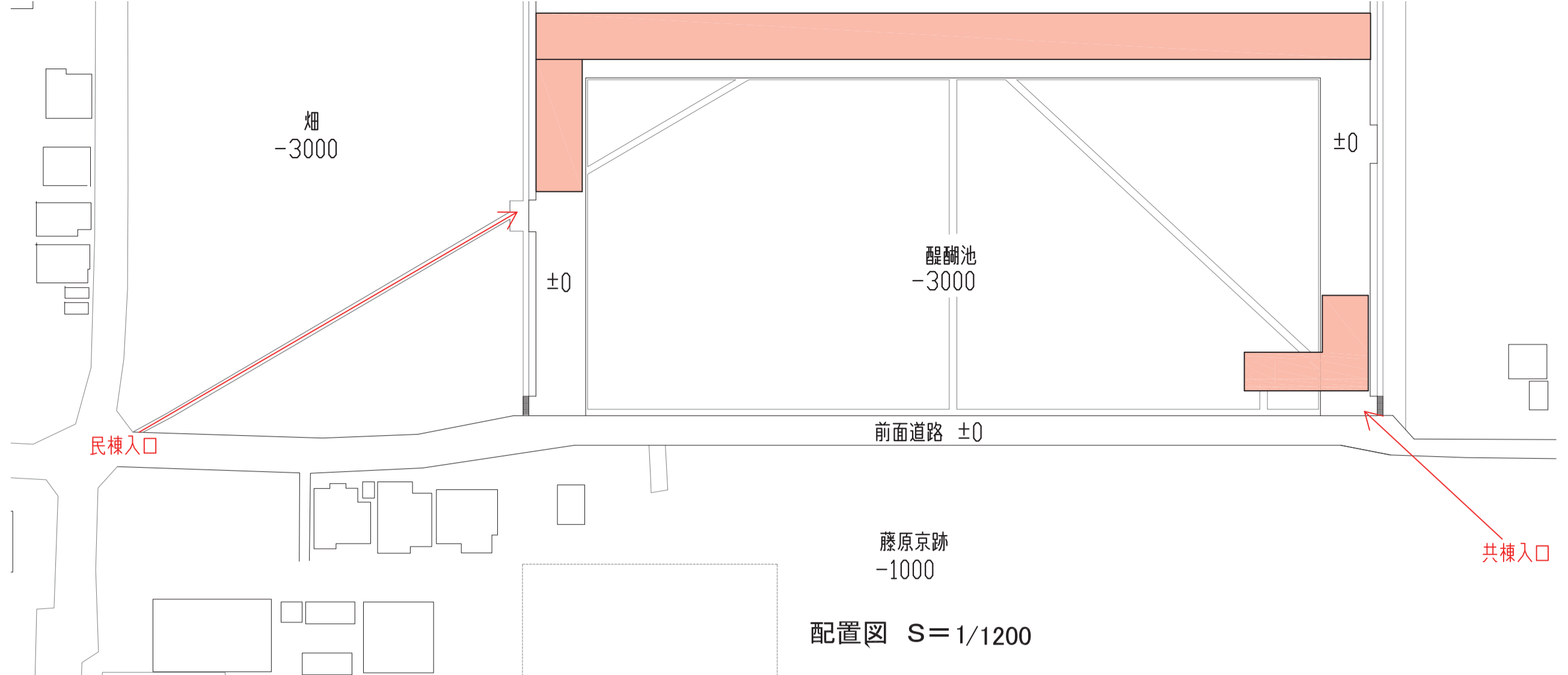


地域に溶け込み、山地との距離を減らし、南部の情報と奈良県の災害の拠点となる安心と未来につながる



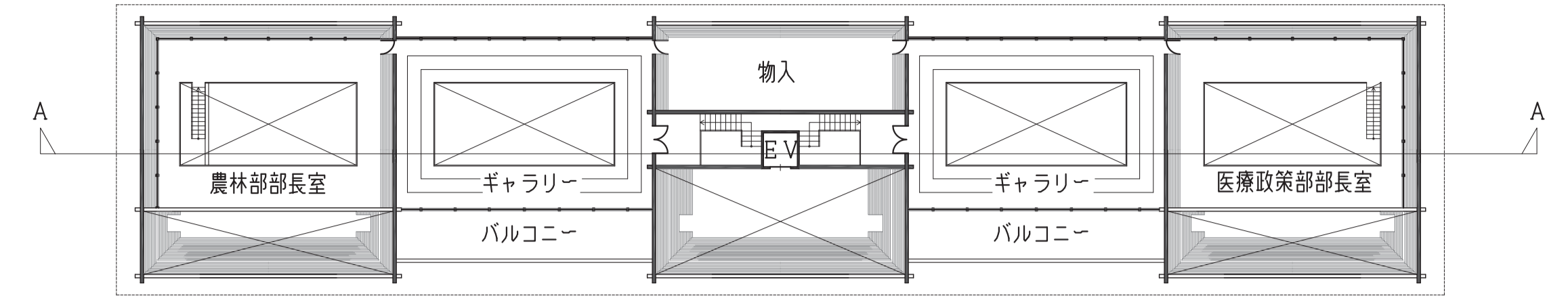
北側立面図 S=1/300





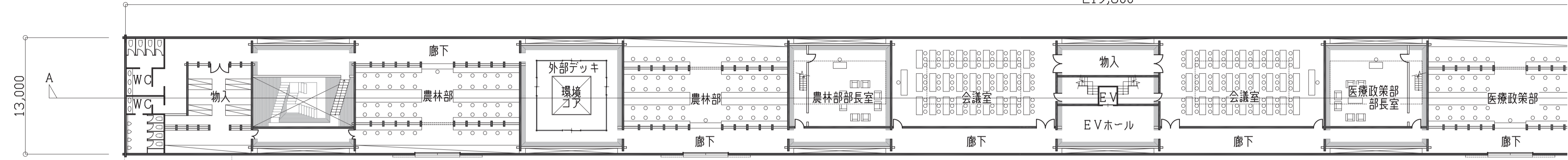


公(県庁)棟

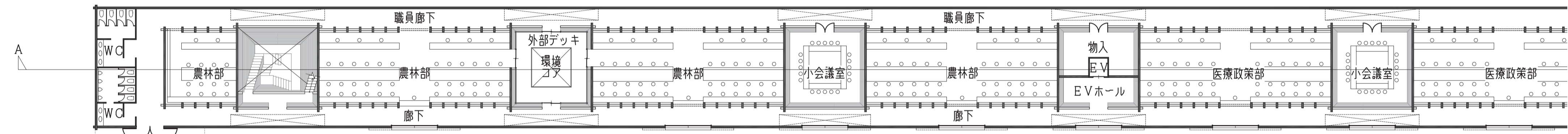


5階平面図 S=1/300

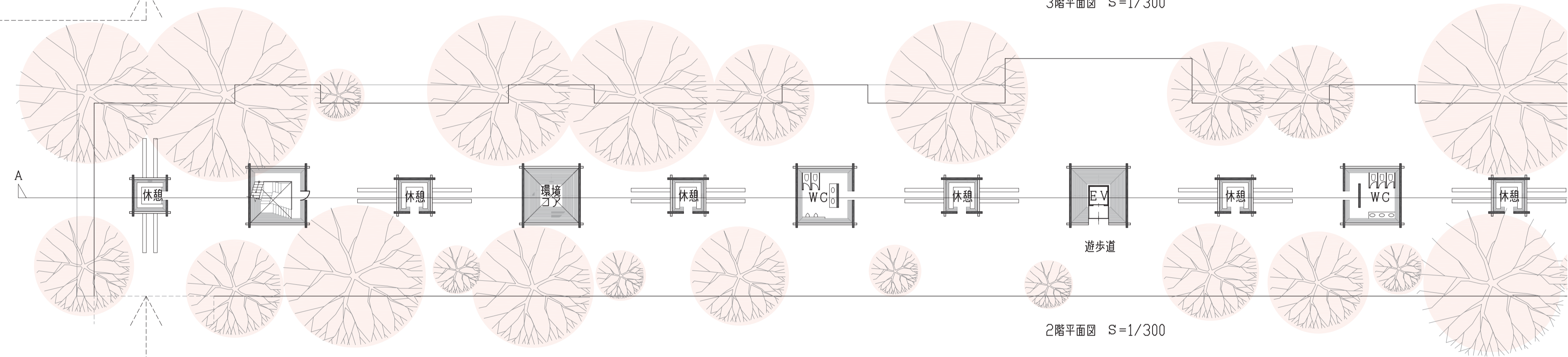
219,800



4階平面図 S=1/300



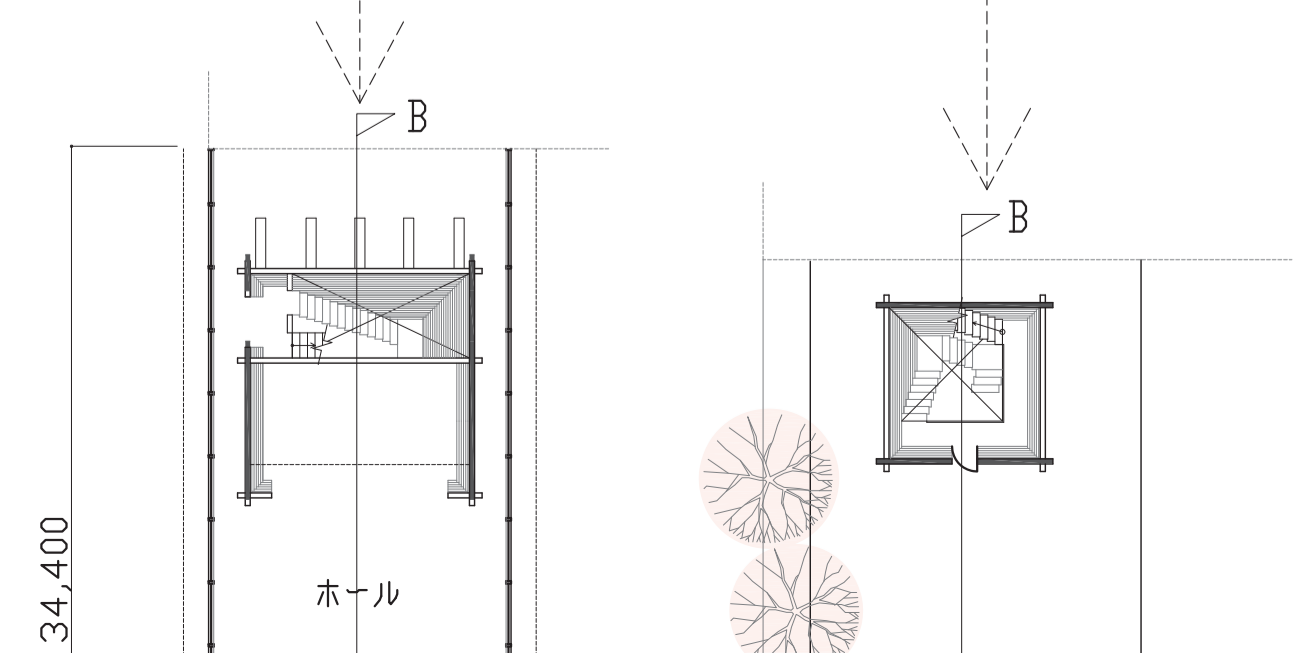
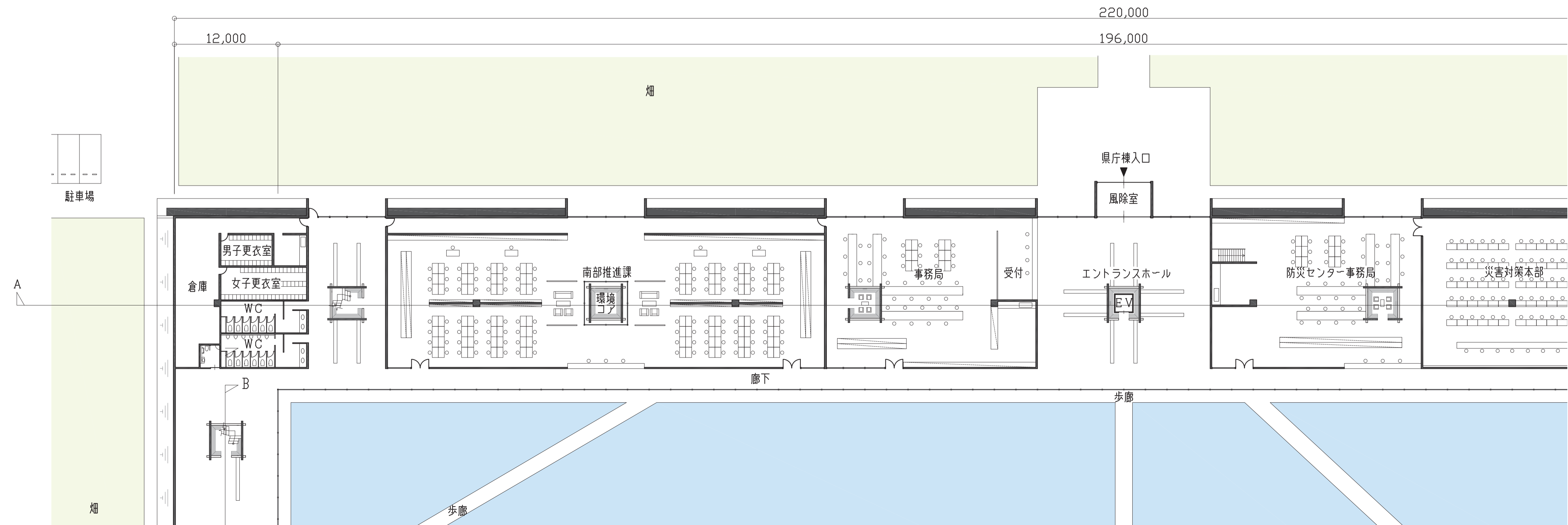
3階平面図 S=1/300



2階平面図 S=1/300

220,000

196,000



34,400

ホール

畑

歩廊

歩廊

駐車場

県庁棟入口

風除室

EV

エントランスホール

防災センター事務局

災害対策本部

受付

事務局

南部推進課

環境コア

倉庫

男子更衣室

女子更衣室

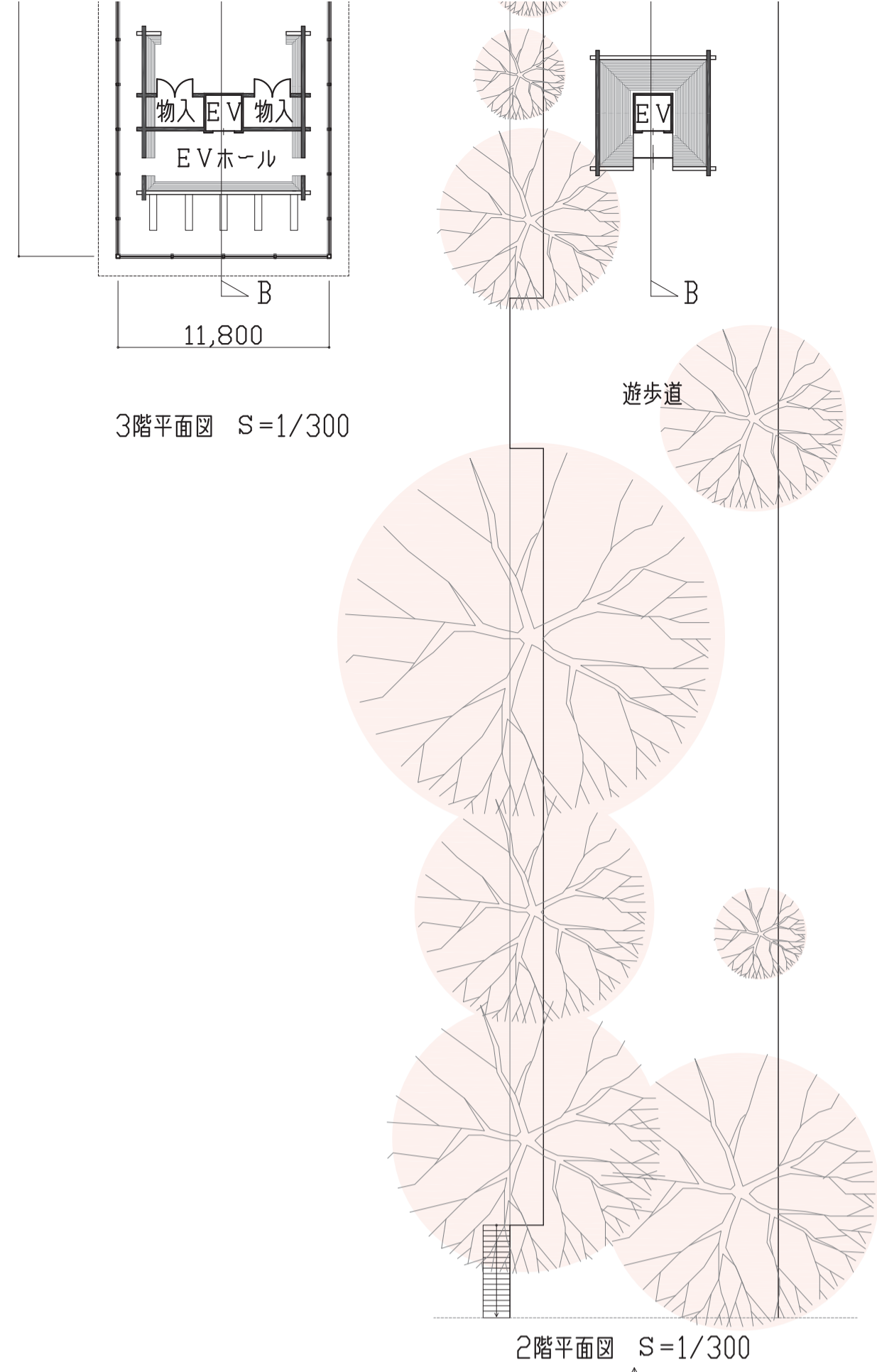
WC

WC

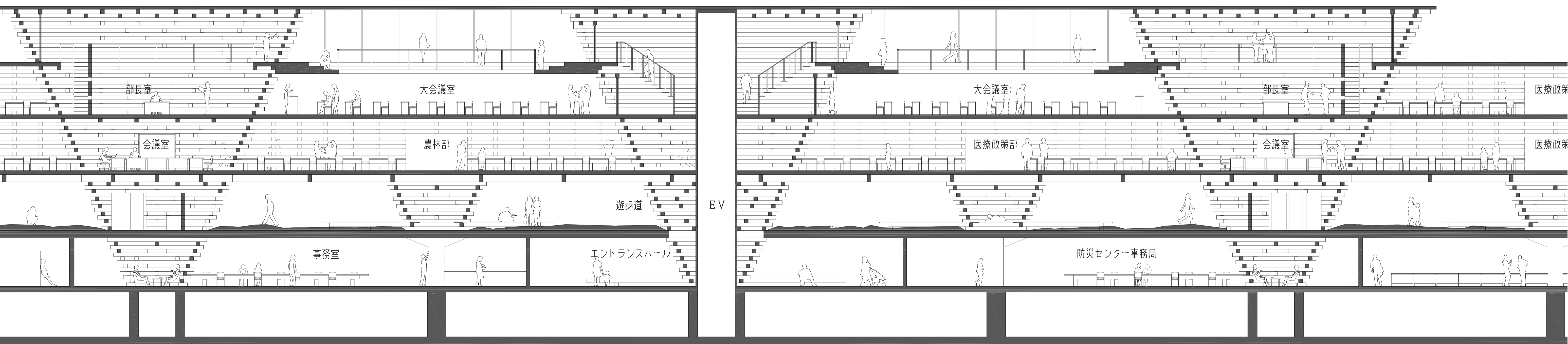
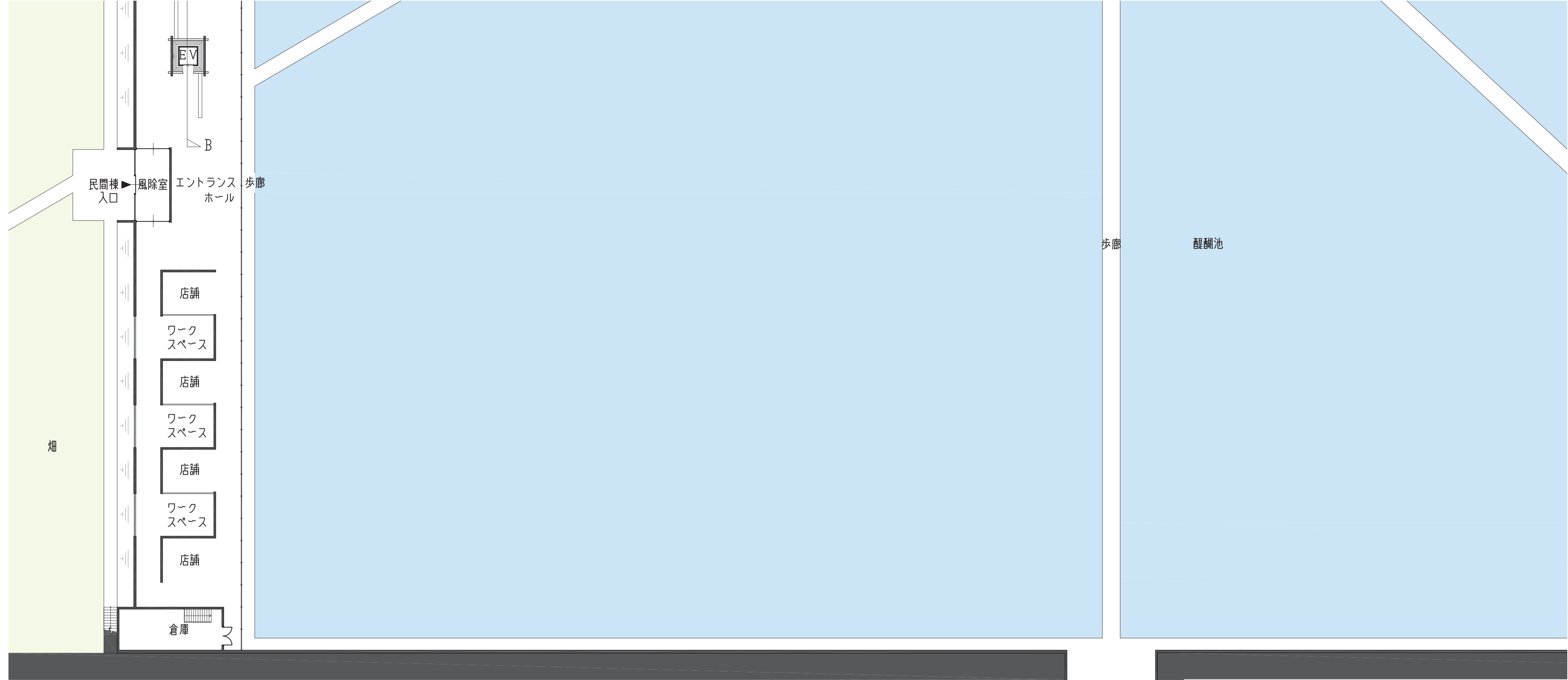
廊下

歩廊

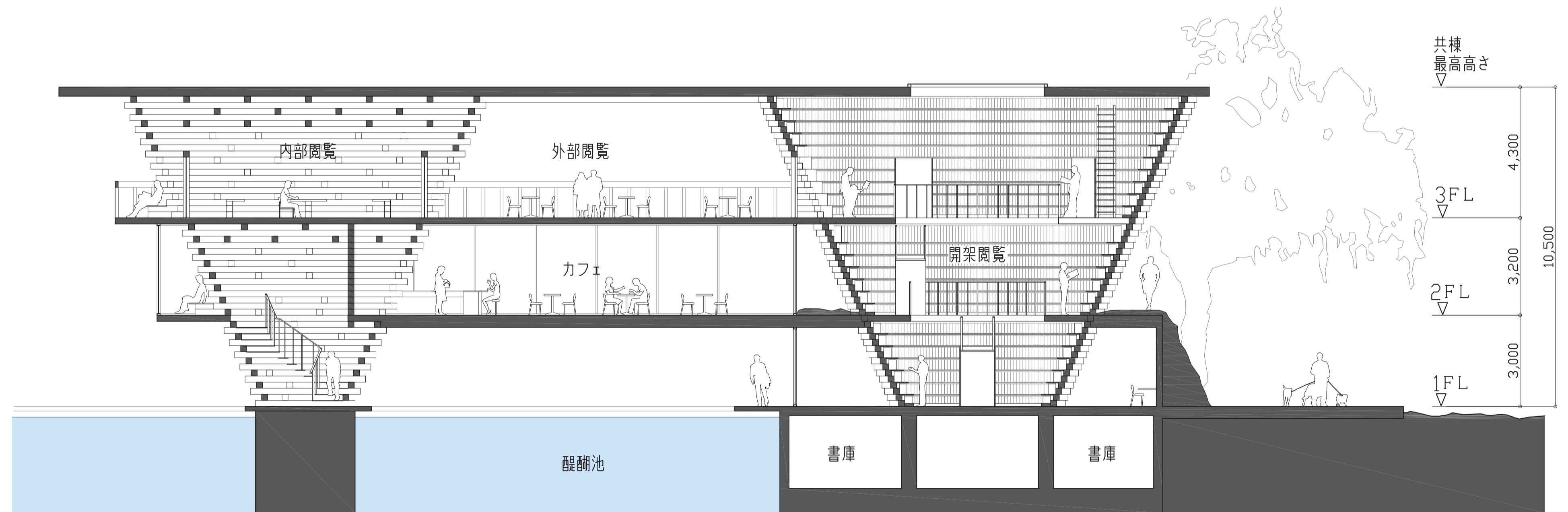
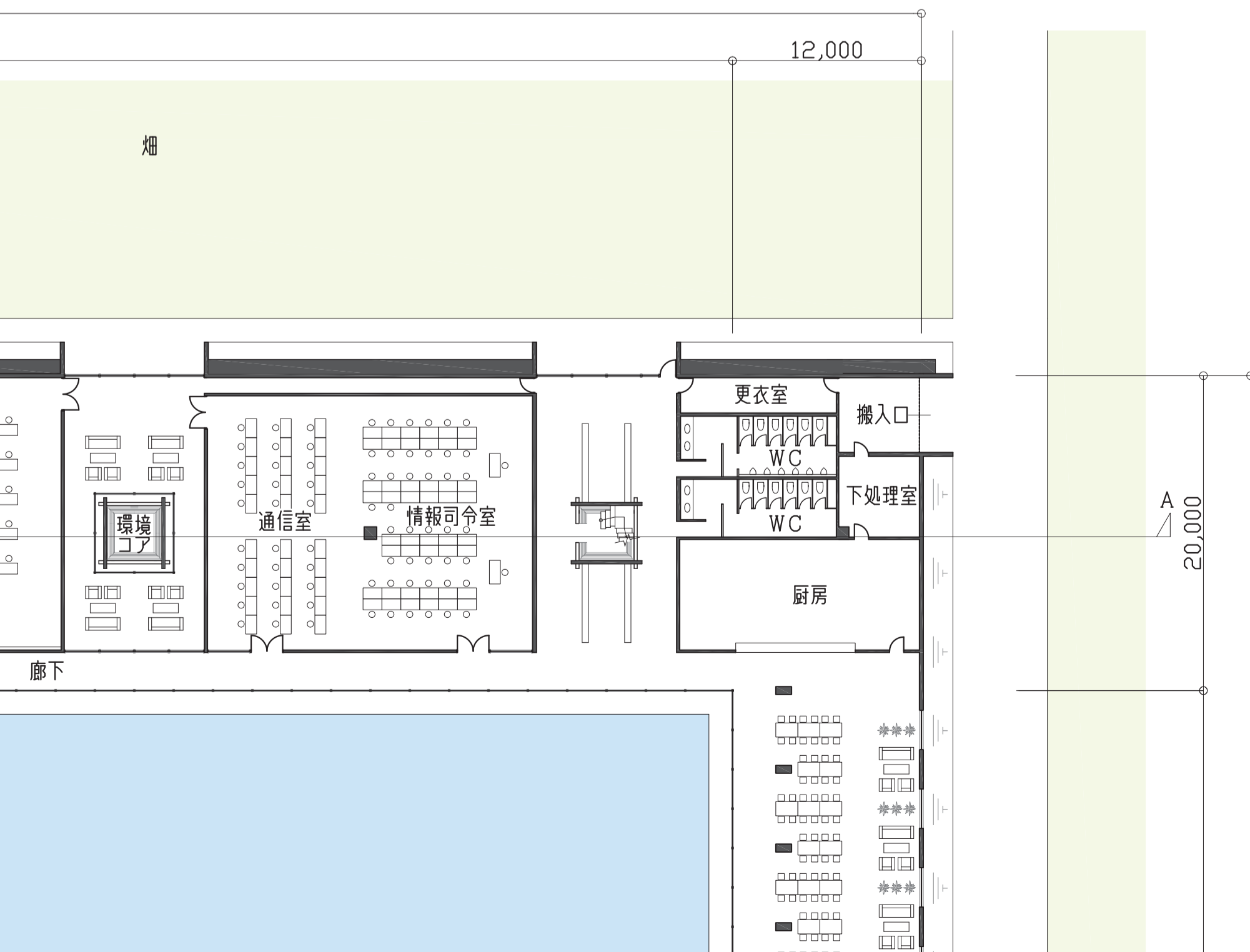
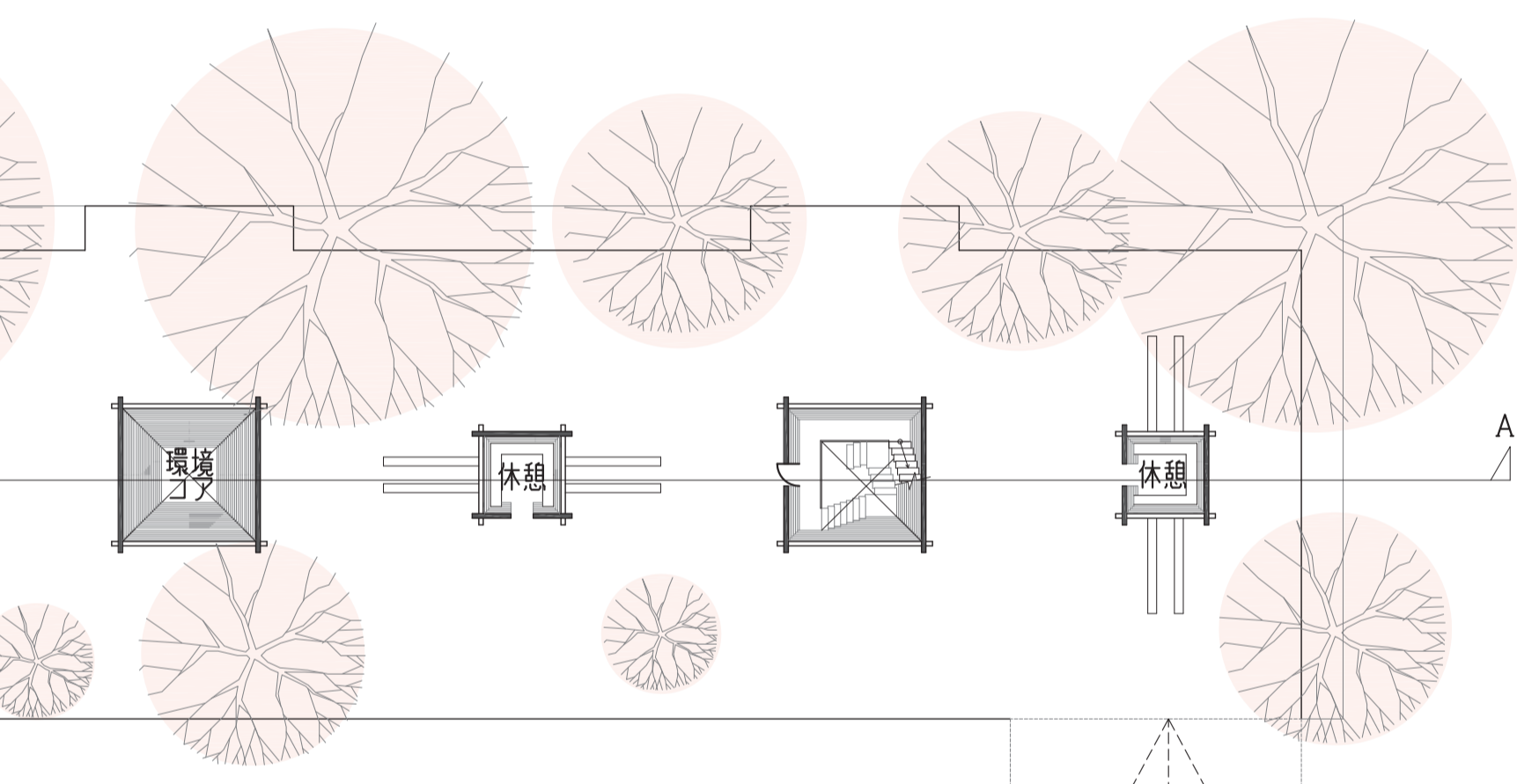
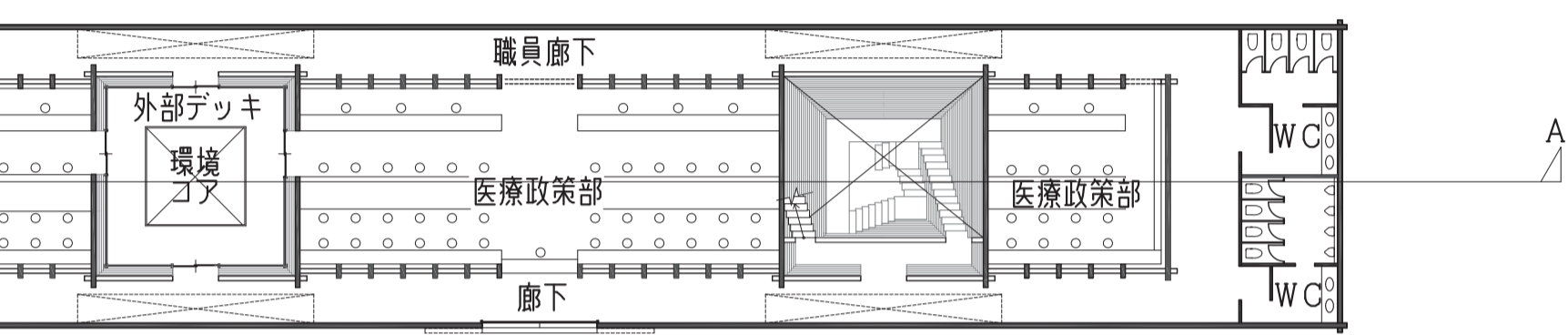
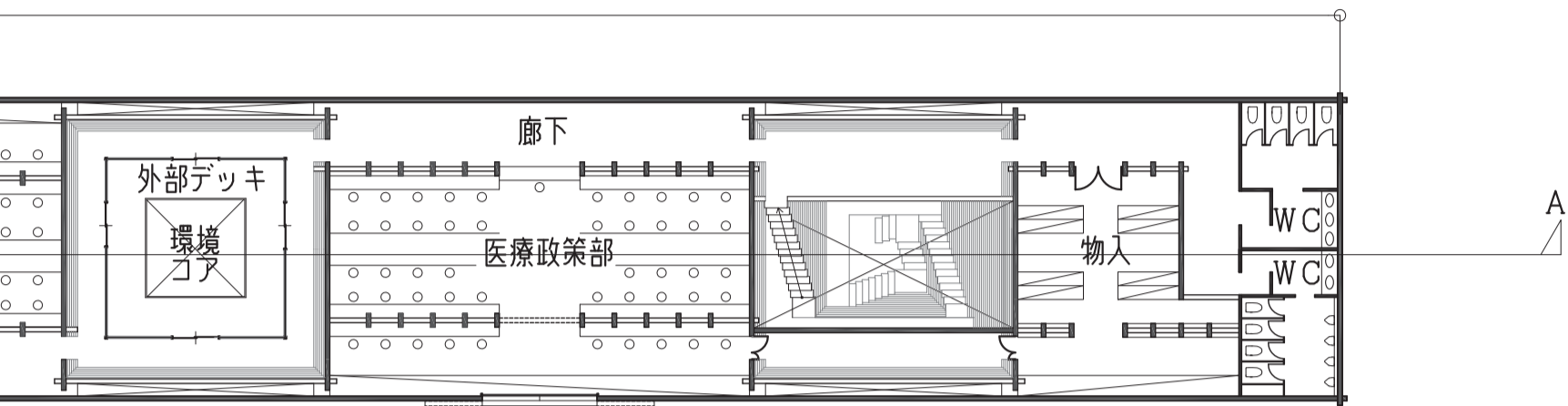
畑



民(ホール・地産店舗)棟

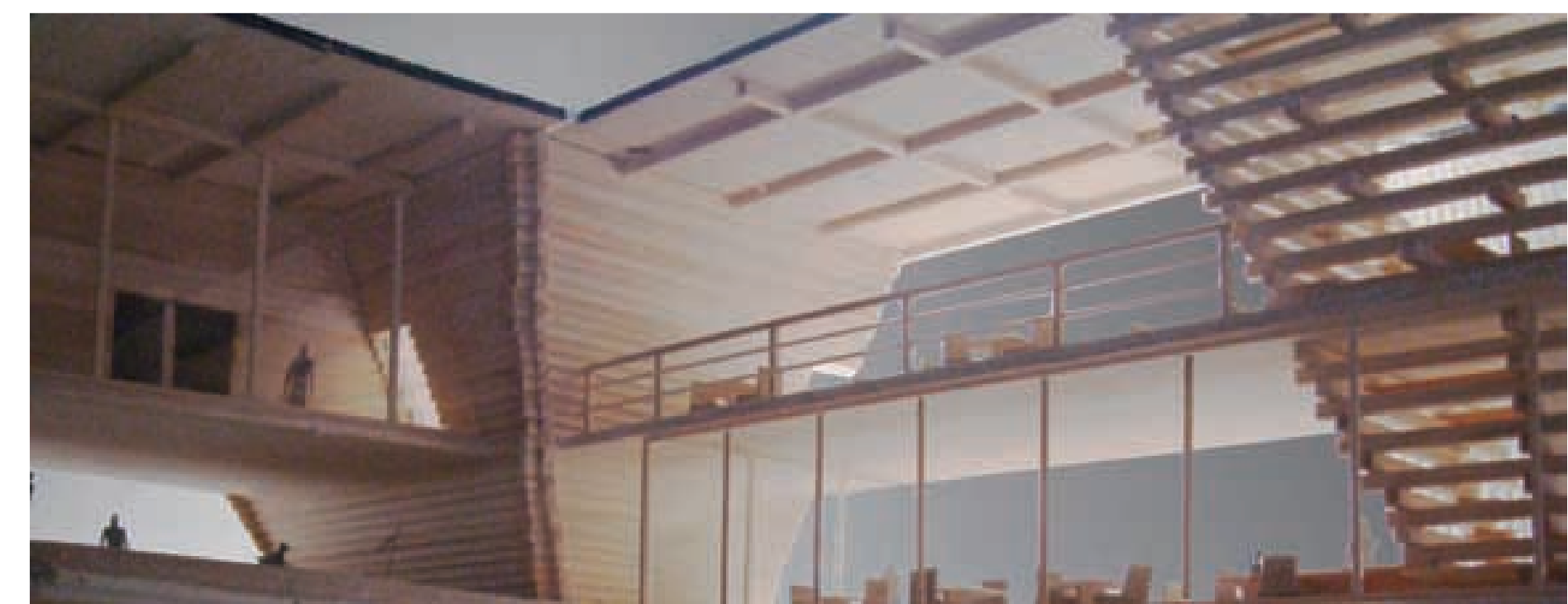


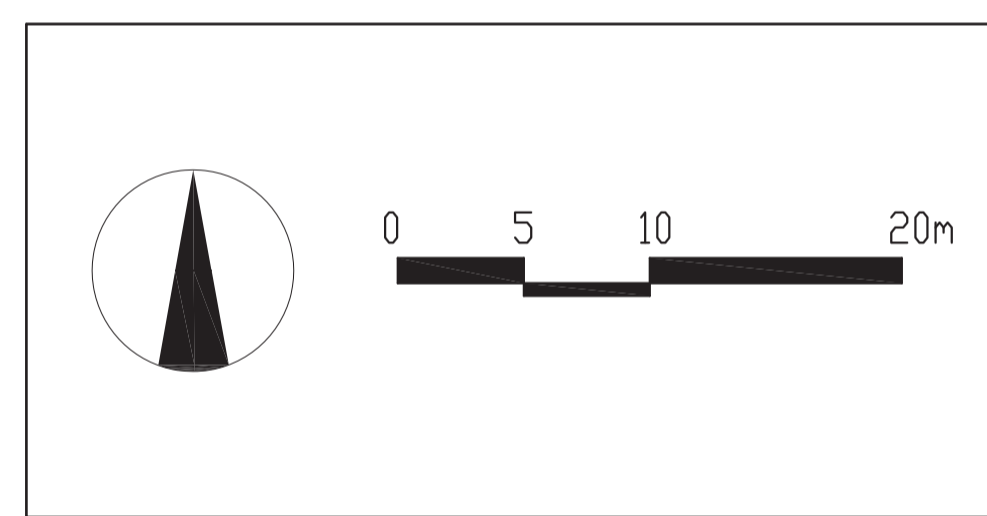
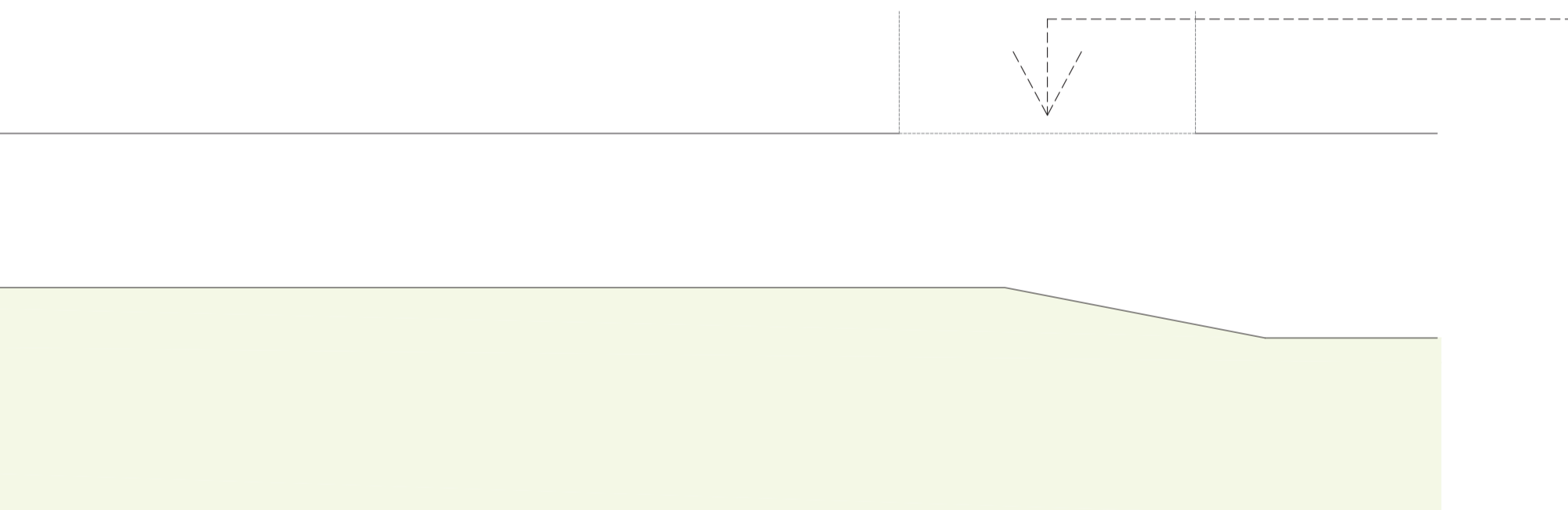
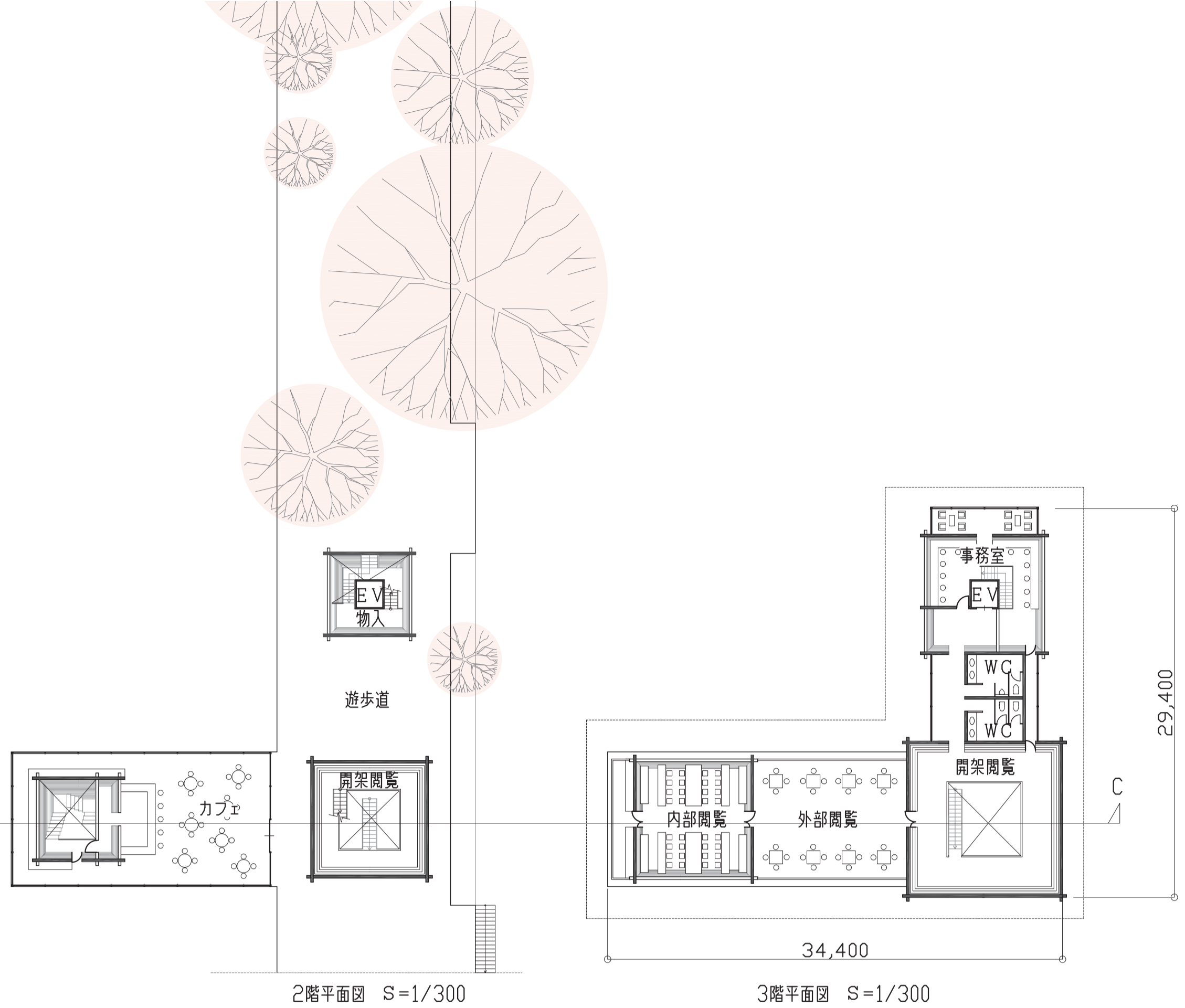
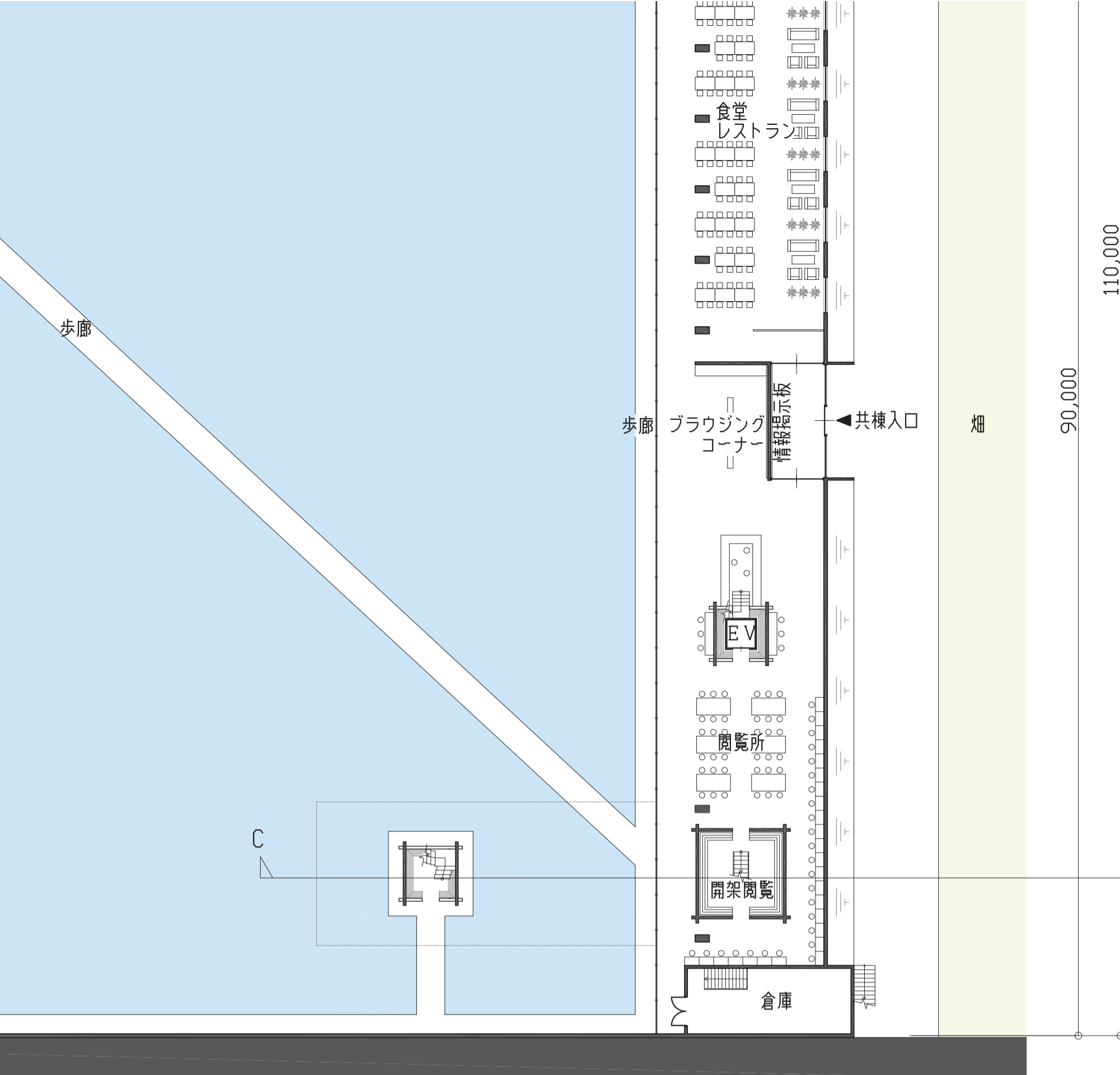
A-A断面図 S=1/100



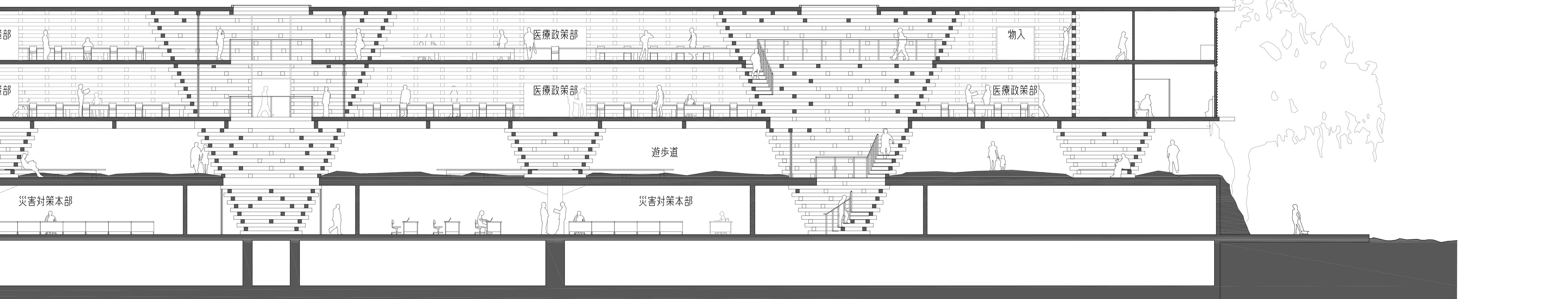
C-C断面図 S=1/100

共(メディア・カフェ)棟





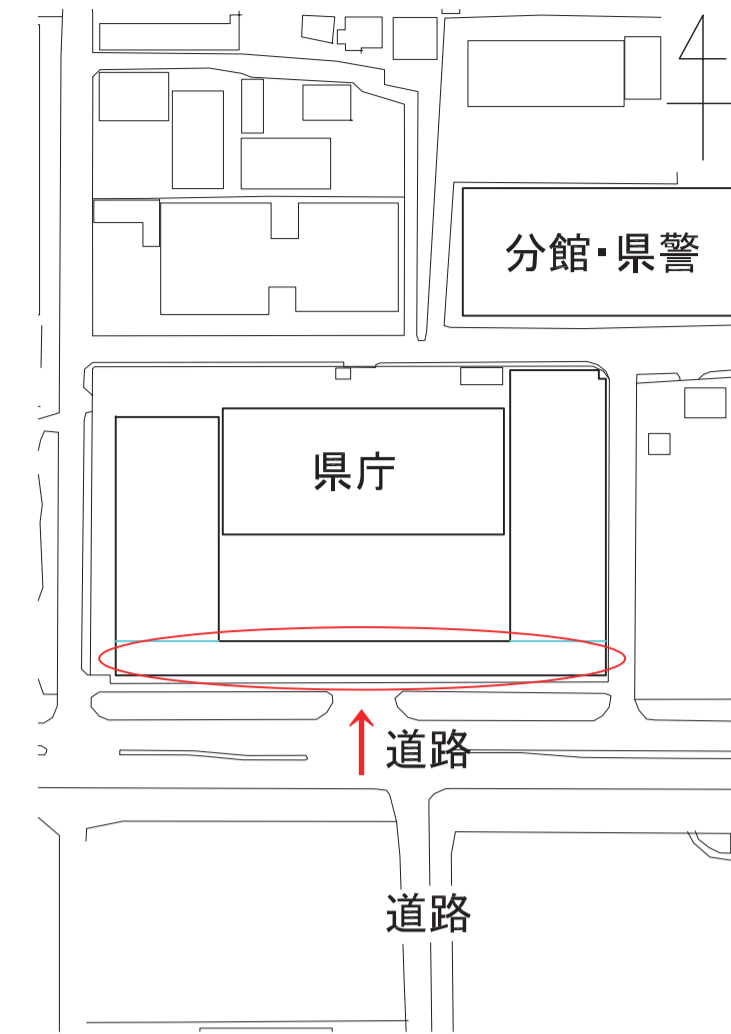
公(県庁舎)棟	南部	北部	南北 合計	共(メディア・図書)棟	民(ホール・地産店舗)棟
防災センター	1500m ²	500m ² (増設)	= 2000m ²	図書館	店舗 1080m ²
農林部	2500m ²	2000m ² (移設)	= 2500m ²	レストラン・カフェ	ホール 420m ²
医療政策部	2500m ²	2000m ² (移設)	= 2500m ²	その他(機械 書庫 備蓄)	
その他	4200m ²	25500m ² (その他部署)			
延べ面積	10700m ²	30000m ²	= 40700m ²	延べ面積	延べ面積 1500m ²



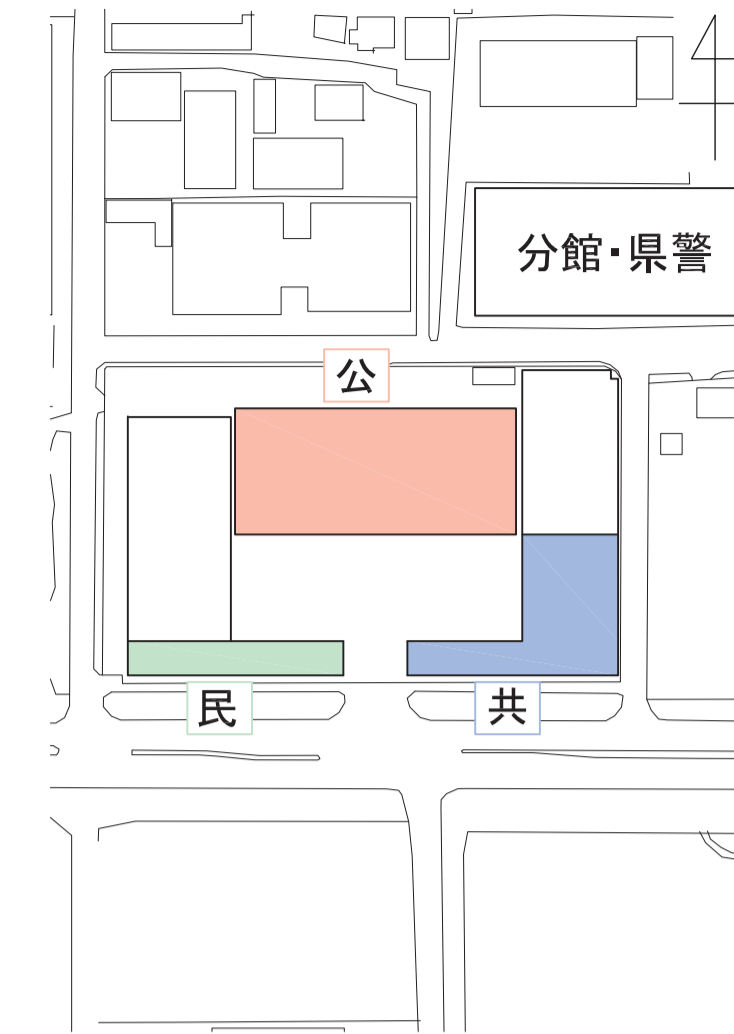
北部(平城京) 計画過程図



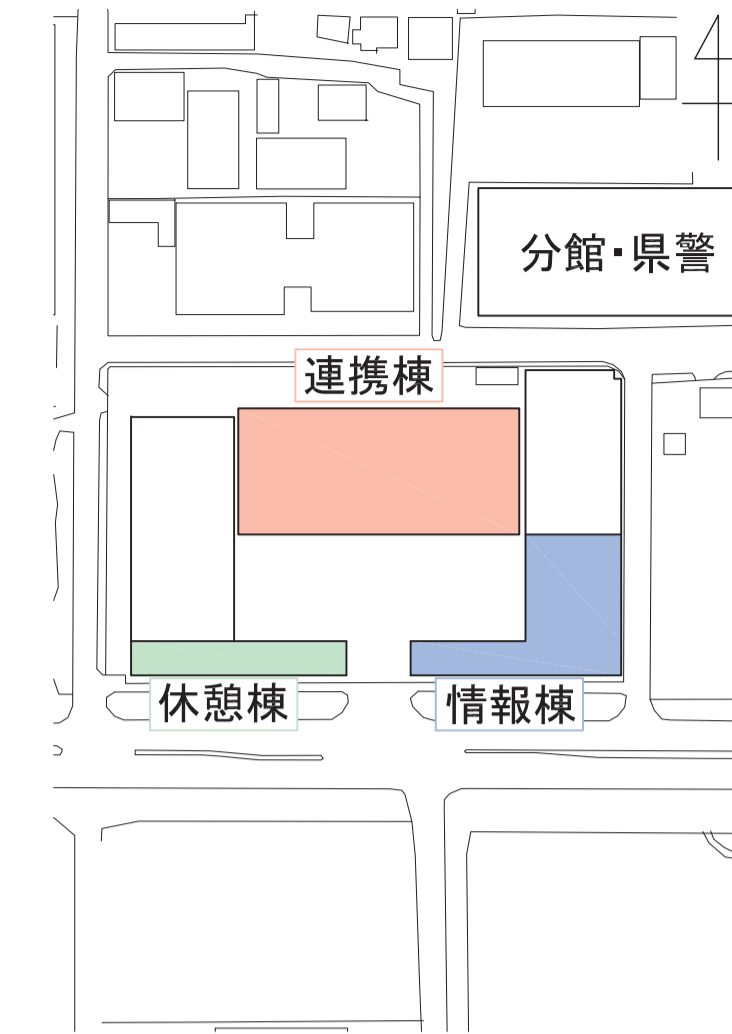
年間3000万人の観光地の中心にあるが場所との繋がりが無く、北部にあることから必要性、利便性を問われている



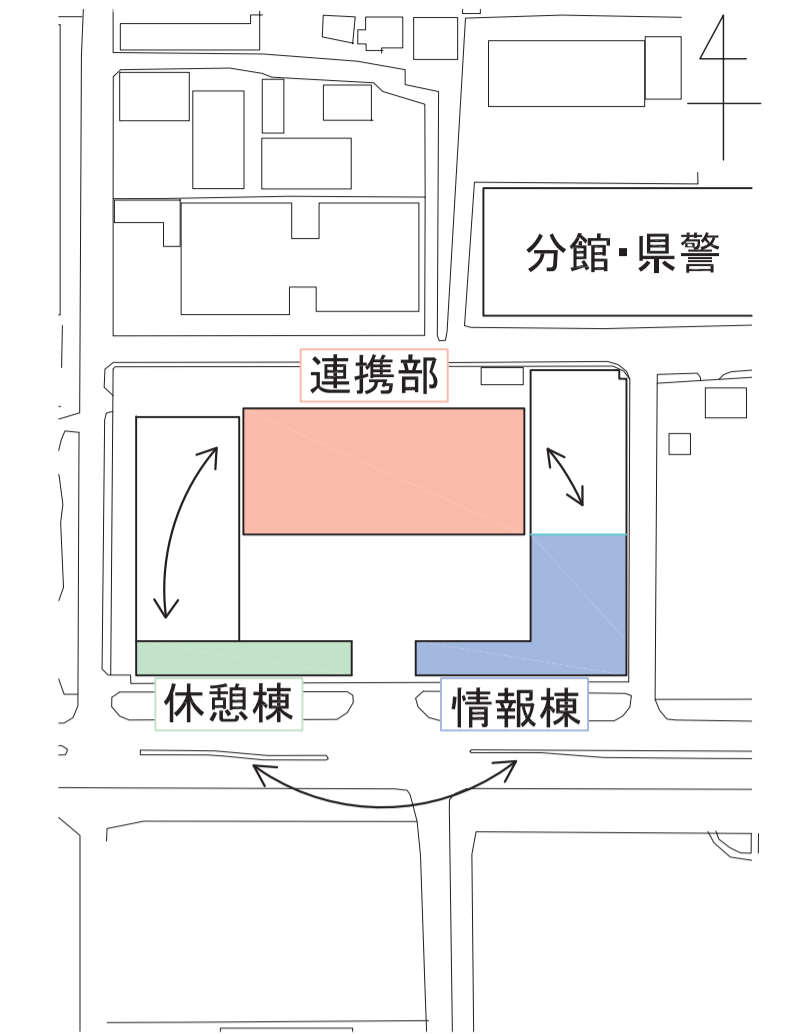
通りの多い前面道路の増築棟を開放し、県庁以外の用途を取り込む



南部移設により出来た空間に公・民・共を配置する

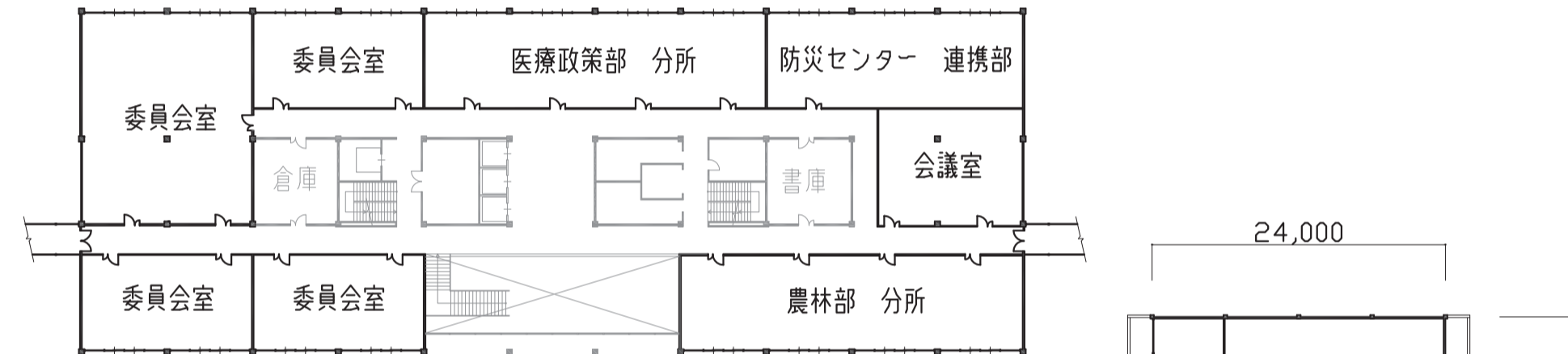


連携棟一南北の県庁を繋ぐ
休憩棟一公と民を繋ぐ
情報棟一市町村の情報を配信し地場と観光者を繋ぐ

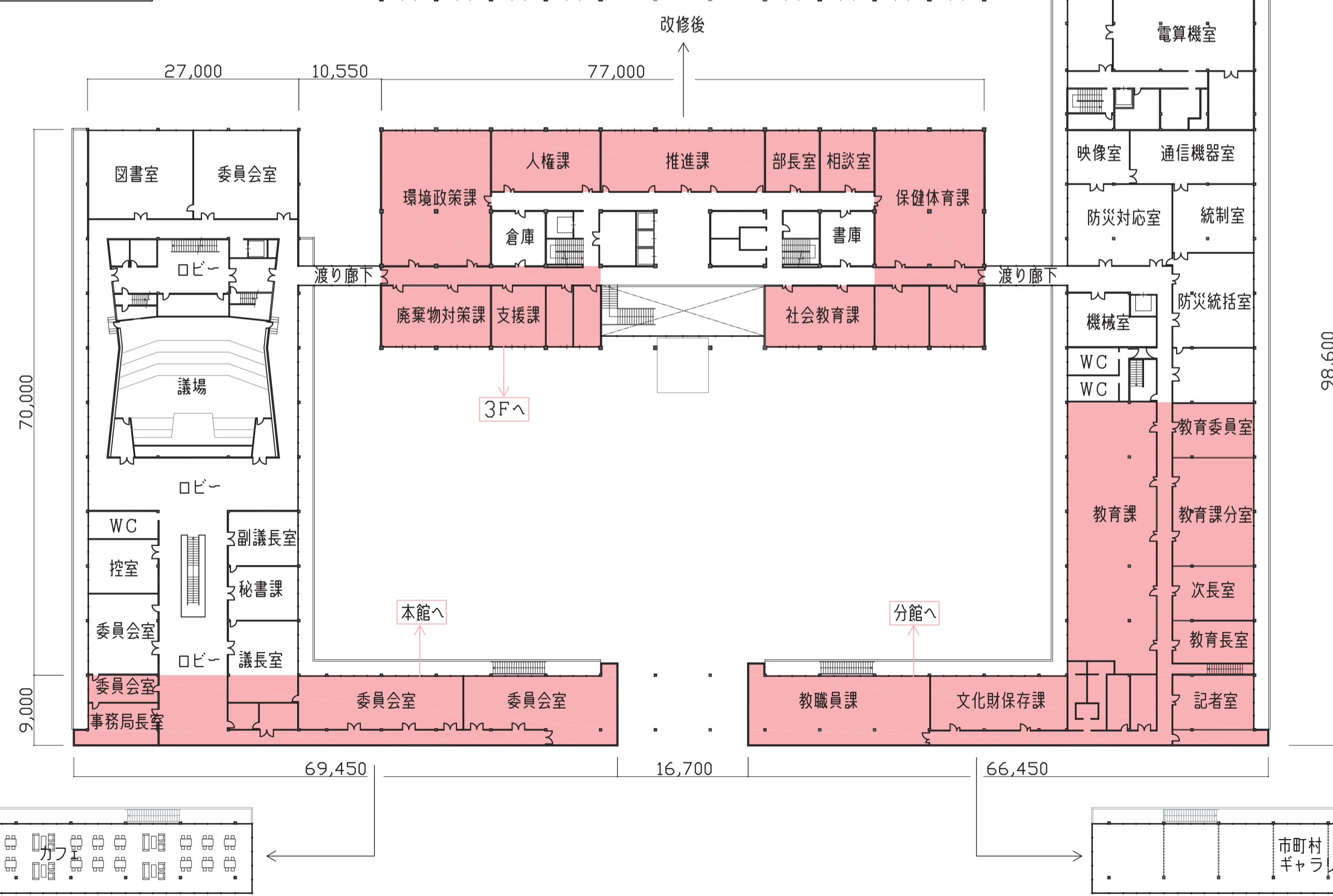


一体利用とすることで立地環境を生きし、必要性、重要性が発生する

- ・既存部署を3Fへ移動
- ・3F医療推進課を新県庁へ移設
- ・既存議会議棟の委員会室を配置
- ・新県庁に移設した各部署と既存の県庁を連携する為、連携分所を配置



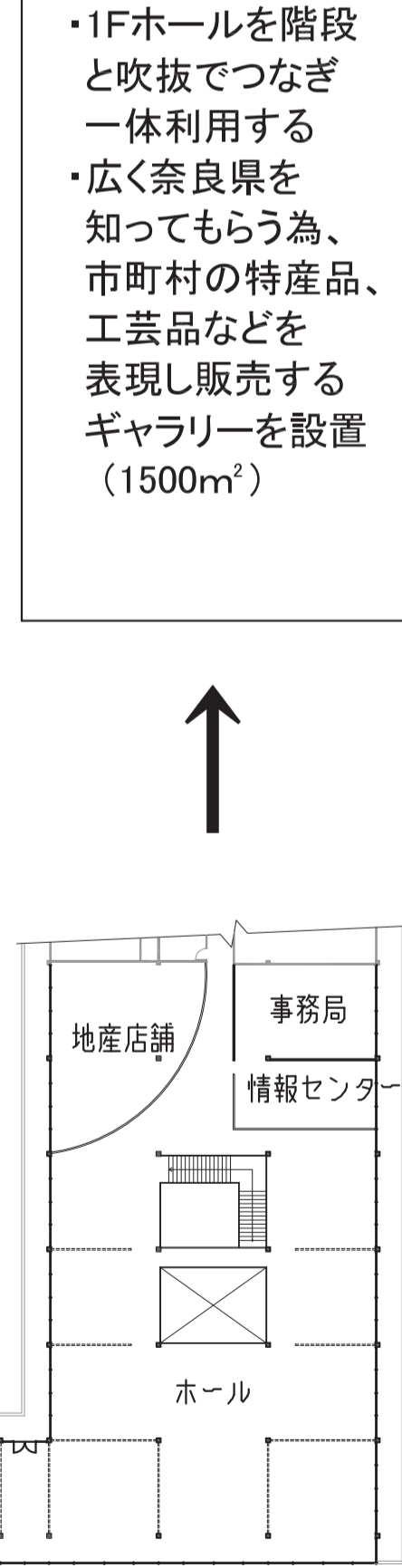
- ・議会議棟委員会室本館へ移設
- ・奈良公園を一望し自由に休憩できるカフェを設置 (625m²)



改修後

2階平面図 S=1:500

- ・既存部署を分館5Fへ移動
- ・分館5F農林部を新県庁へ移設
- ・1F情報センター移設
- ・1Fホールを階段と吹抜でつなぎ一体利用する
- ・広く奈良県を知ってもらう為、市町村の特産品、工芸品などを表現し販売するギャラリーを設置 (1500m²)

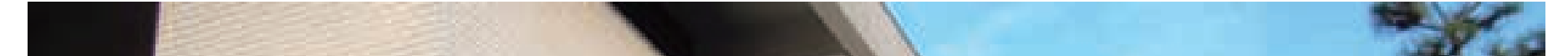


改修後



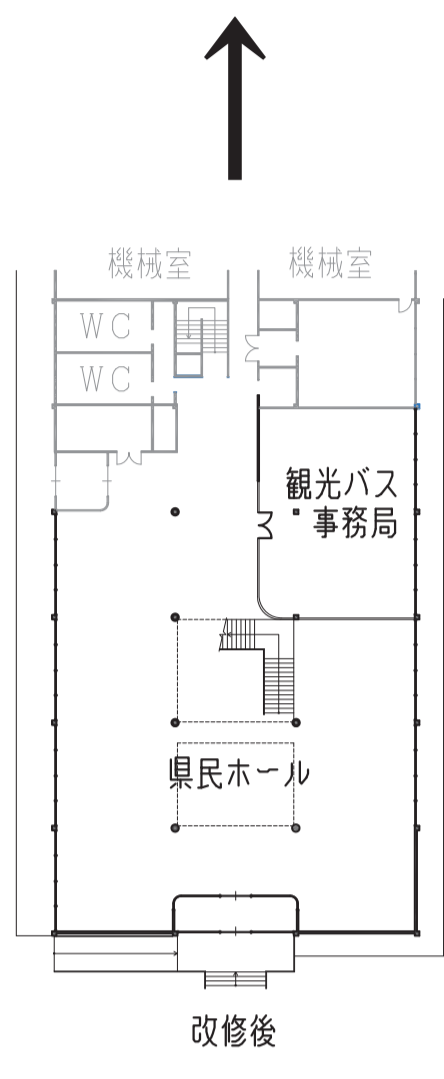
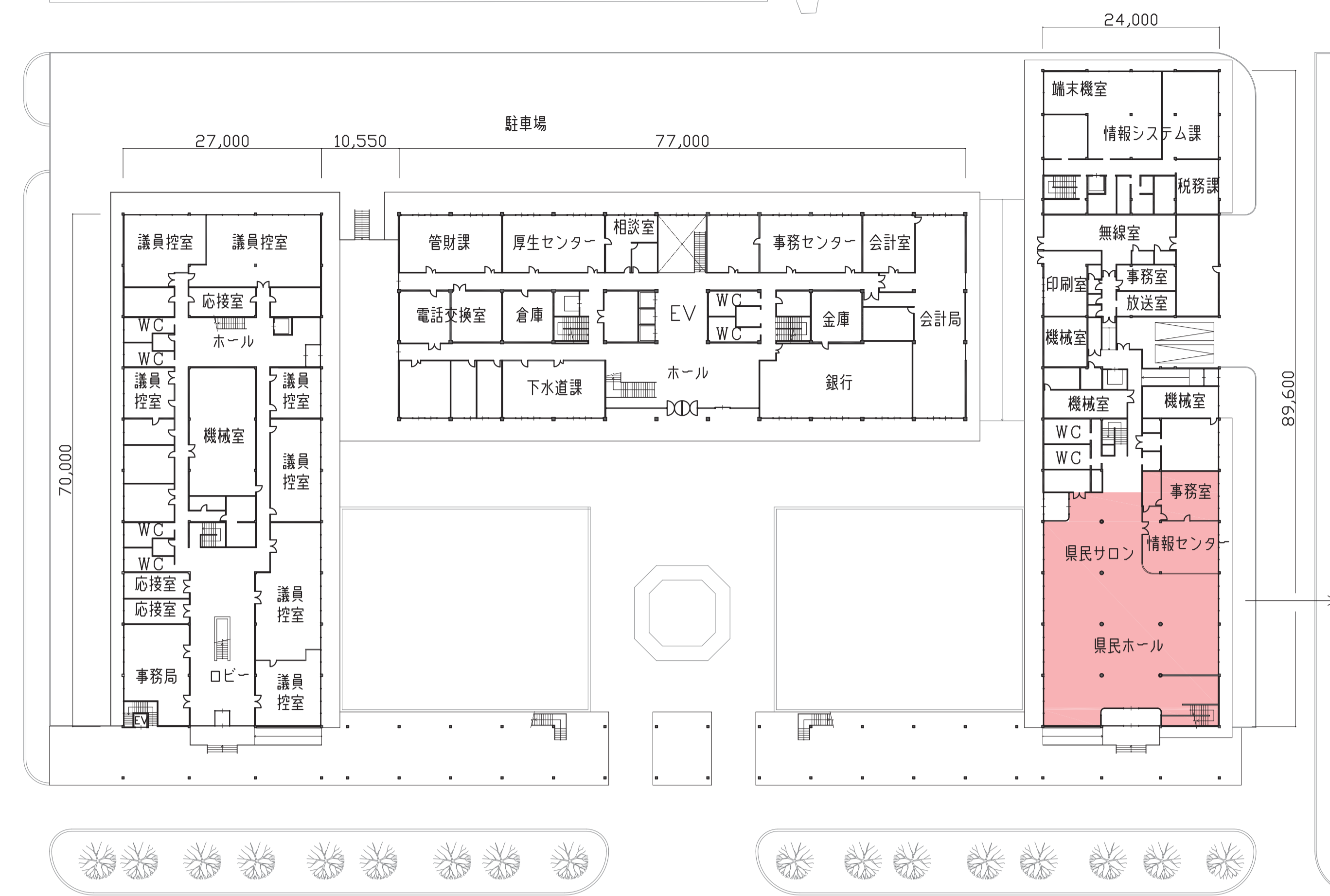
分館

・情報センターを



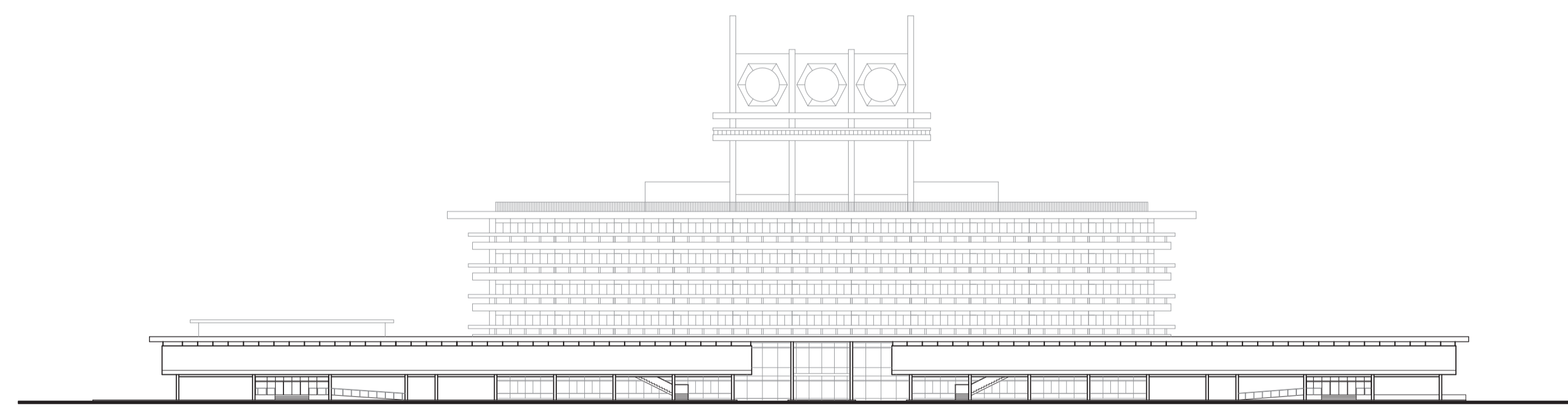
2Fへ移動

- ・現況ホールを拡大し2Fと繋げる
- ・現在、ほとんどの観光バスが奈良県には無い為、南北を繋ぐしかバスの事務局、発着場を設置

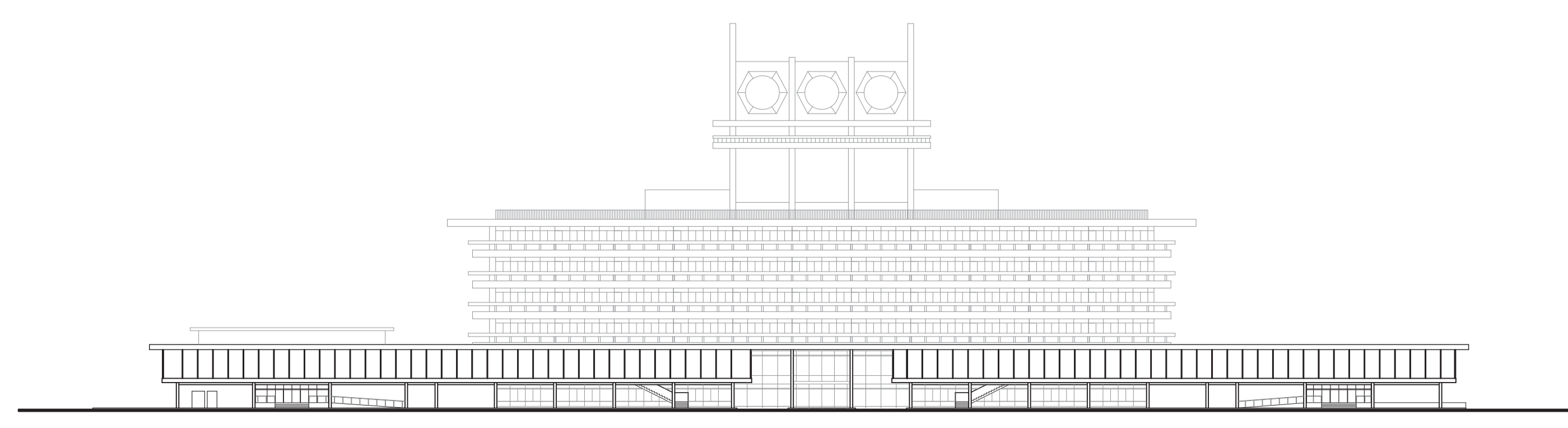


奈良公園

配置図兼1階平面図 S=1:500



現況立面図 S=1/500



改修立面図 S=1/500

